

1. はじめに

建設業は、社会資本整備の担い手であると同時に、災害時には最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う「地域の守り手」として、その社会的使命を果たしていく必要がある。「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和3年5月7日変更）」（以下、対処方針）において、公共工事は社会の安定の維持の観点から、緊急事態措置の期間中にも、継続を求められる事業として位置づけられている。また、対処方針においては、国民の安定的な生活の確保の観点から、インフラ運営関係（電力、ガス、上下水道等）、家庭用品のメンテナンス関係（配管工・電気技師等）等の事業者について、自宅等で過ごす国民が、必要最低限の生活を送るために不可欠なサービスの提供に関する事業の継続を要請するとされており、公共工事以外の建設工事についてもこれらの事業の継続のために必要な工事については継続することが求められるものと考えられる。今後、完全な感染症の終息までの期間が長期にわたることを考えると、一層感染防止のための取り組みを進め、新型コロナウイルス感染症のまん延を防止していく役割に加え、事業を通じた国民生活への貢献拡大という役割が求められる。

新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン

（令和2年5月14日（令和3年5月12日改訂版））

本ガイドラインは、対処方針や新型コロナウイルス感染症専門家会議の分析・提言等を踏まえ、事業者の建設現場やオフィス（ここでいうオフィスとは労働安全衛生法上の事業場の概念であり、従業員が事務作業を行う事業場（現場事務所含む）をいう。）において、建設現場等の実態に応じた新型コロナウイルス感染症予防対策を行う際の基本的事項について、参考として整理したものである。

事業者は、対処方針の趣旨・内容を十分に理解した上で、本ガイドラインに示された「感染防止のための基本的な考え方」と「講じるべき具体的な対策」等を踏まえ、必要に応じ、衛生委員会等を開催し、建設現場等の様態等を考慮した創意工夫を図りながら、新型コロナウイルスの感染予防に取り組むよう努めていく必要がある。

また、自らの建設現場やオフィスの感染予防対策に留まらず、情報の提供・共有等を通じ、取引先企業、医療関係者を含む他の事業者の感染拡大防止対策の支援に積極的に貢献していくことを願いたい。

本ガイドラインは、緊急事態措置・まん延防止等重点措置下はもとより、これら以外においても、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが低減し、早期診断から重症化予防までの治療法の確立、ワクチンの開発等により企業

1 内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針
(https://corona.go.jp/news/news_20200411_53.html)

2 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_sennnonkakaigi.html)

の関係者の健康と安全・安心を十分に確保できざる段階に至るまでの間の事業活動に用いられるべきものである。本ガイドラインの内容は、関係省庁や専門家の知見を得て作成したものである。今後、感染症の動向や専門家の知見、対処方針の改定等を踏まえ、適宜、必要な見直しを行うものとする。

2. 感染防止のための基本的な考え方

事業者は、建設現場の立地や工事内容等を十分に踏まえ、建設現場やオフィス等に移動する自動車内や移動経路、立寄先や通勤経路を含む周辺地域において、従業員等の感染を防止するよう努めるものとする。このため、「三つの密」が生じ、クラスター感染発生リスクの高い状況を回避するため、最大限の対策を講じる。

職場における新型コロナウイルス感染症の大規模な感染拡大を防止するためには、事業者、従業員等それぞれが、職場内外での感染防止行動の徹底について正しい知識を持って、建設現場やオフィス等の実態に即した対策に取り組むことが必要である。このため、事業者においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に積極的に取り組む方針を定め、全ての従業員等に伝えるとともに、従業員等も取組の趣旨を踏まえて感染拡大防止に向けた一人一人の行動変容を心がける。

具体的には、①労働衛生管理体制の再確認、②換気の徹底等の作業環境管理、③職場の実態に応じた作業管理、④手洗いの励行など感染予防に関する基本的な知識も含めた労働衛生教育、⑤日々の体調管理等も含めた健康管理に留意して取組を実施する。

特に、「三つの密」が生じやすいと考えられる建築工事の現場やオフィスにおいては、感染防止対策の徹底に注意が必要である。

3. 講じるべき具体的な対策

(1) 感染予防対策の体制

- ・経営トップが率先し、新型コロナウイルス感染防止のための対策の策定・変更について検討する体制を整える。
- ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、新型インフルエンザ等対策特別措置法等の関連法令上の義務を遵守するとともに、労働安全衛生関係法令を踏まえ、衛生委員会や産業医等の産業保健スタッフの活用を図る。
- ・国・地方自治体・建設業者団体等を通じ、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を常時収集する。

(2) 健康確保

- ・従業員や作業員（元請・下請問わず、一人親方を含む。以下同じ。）に対し、出勤前に、体温や新型コロナウイルスへの感染を疑われる症状の有

無を確認させる。体調の思わしくなくない者には各種休暇制度の取得を奨励する。また、勤務中に体調が悪くなった従業員・作業員は、必要に応じて、直ちに帰宅させ、自宅待機とする。

発熱等の症状により自宅で療養することとなった従業員・作業員は毎日、健康状態を確認した上で、症状がなくなり、出社判断を行う際には、学会の指針等を参考にする。症状に改善が見られない場合は、医師や保健所への相談を指示する。

従業員・作業員に対して、休日はしっかりと睡眠を取り、休養に努めるよう求める。

(3) 建設現場

施工中の工事等における新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置等については、手洗いなどの感染予防の徹底に加え、建設現場における「三つの密」の回避やその影響を緩和するための対策の徹底を図ることが必要である。

建設現場における朝礼・点呼や現場事務所等における各種打合せ、更衣室等における着替えや詰め所等での食事・休憩など、現場で多人数が集まる場面や密室・密閉空間における作業などについて、以下(イ)以降に定めるところにより、「三つの密」の回避やその影響を緩和するための対策を徹底するものとする。

また、これまでも建設現場においては、体温測定等による健康管理や作業・打合せ時のマスク着用等、対処方針を踏まえた対策の徹底とともに、建設現場における「三つの密」の回避や影響緩和に向けた様々な取組や工夫が実践されているところであり、国土交通省においては、関係団体の協力を得て、建設現場の「三つの密」の回避等に向けて建設企業で実践されている取組事例を、別添2のとおりとりまとめているので、これを参考に、個々の建設現場の状況に応じた「三つの密」の回避等の徹底に努めるものとする。

(イ) 建設現場における対応

従業員や作業員に対し、出勤前に、体温や新型コロナウイルスへの感染を疑われる症状の有無を確認させる。体調の思わしくなくない者には各種休暇制度の取得を奨励する。また、勤務中に体調が悪くなった従業員は、必要に応じて、直ちに帰宅させ、自宅待機とする。〔(2) 再掲〕

現場入場時の体温測定等、個々の建設現場において適切な健康管理を実施する。

現場状況等を勘案しつつ、消毒液（アルコール等）の設置や不特定の者が触れる箇所の定期的な消毒を実施する。

現場でのマスクの着用や手洗いを励行する。

※フェイスシールド・マウスシールドはマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要。
※熱中症対策のため、夏期の気温・湿度が高い時期においては、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合にはマスクを外すほか、P7に記載した「新型コロナウイルス対策に伴う熱中症リスク軽減等のための取組事例」等を参考として、現場の状況に応じた熱中症対策に取り組む。

朝礼・点呼や現場事務所等における各種の打合せ、更衣室等における着替えや詰め所等での食事・休憩等、現場で多人数が集まる場面や密室・密閉空間における作業等においては、他の作業員とできる限り2メートルを目安に一定の距離を保つことや、作業場所の換気の励行等、三つの密の回避や影響を緩和するための対策に万全を期す。

事業所内に感染防止対策を示したポスター（保健所等の連絡先を明記することが望ましい）やロゴ、看板を設置し、「三つの密」回避等の意識向上と作業姿勢の定着を図る。

内装工事や仮設昇降機などで閉鎖もしくは狭い空間に多人数が集まる場面では、マスク着用は元より、工事エリアごとに区画を設定し、人数制限を設けるほか、扉・窓の開放による自然換気、換気装置の設置などにより、感染を予防する。

□朝礼・KY活動における取組事例

○朝礼時の配列間隔の確保

○対人間隔が確保困難な場合等の朝礼の参加人数の縮小等

○伝達事項等に即した朝礼等の時間短縮や内容の効率化

○肩もみ等の接触を伴う活動の省略

○マスクの入手が困難な場合の指差し呼称の省略

○朝礼時の体温測定等

○テレビ通話ツール等の利用による現場・事務所間の遠隔開催等

□現場事務所等での業務・打合せに関する取組事例

○事務作業時の対人間隔の確保や窓等の開放による換気

※ 内閣府「感染の再拡大防止対策サイト」
(<https://corona.go.jp/proposal>)

※ 日本建設業協会「職業衛生学会作成「職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド」等」
(<https://www.sancel.or.jp/images/contents/416/COVID-19guide-19guide1215koukai.pdf>)

- Web(TV)会議やメール・電話による対面の打合せ等の削減
- 対面での打合せ等を行う場合には十分な対面距離を確保
- 時間帯による打合せの分散化や、打合せ時間の短縮・人数の縮小
- 現場事務所等での空気清浄機の使用等

□内装工事等、室内の現場における取組等

○内装仕上げや設備工事等の室内の作業では、工事エリアごとに区画を設定して作業

○狭い場所や居室での作業は、広さ等に応じて入室人数を制限して実施

○大部屋での作業等においても、あらかじめ工程調整等を行ってフロア別に人数を制限

○室内には換気装置を設定し、換気を実施

○工程管理や内装仕上げの確認・是正に Web カメラや通信端末等を利用し、遠隔で実施

○作業用エレベーターは3密回避のための使用のルール化

・ドアノブ、電気のスイッチ、パソコン、タブレット、工具、手すり、エレベーターのボタン、ゴミ箱、電話、共有のテーブル・いす等の共有設備について、洗浄・消毒を行う。

・特に、重機や車両のハンドルや操作レバー等複数の従業員が頻繁に触れる箇所についてはこまめに消毒を行う、必要に応じ、車両運転時に使用のゴム手袋等を着用する。

※設備や器具の消毒は、アルコール（エタノール又は2-プロパノール）あるいは0.05%の次亜塩素酸ナトリウム溶液、もしくは遊離塩素濃度25ppm（25mg/L）の亜塩素酸水溶液等、当該設備・器具に最適な消毒液を用いる。

※60%のアルコール濃度の製品でも消毒効果があるとする報告もあることから、アルコール（エタノール又は2-プロパノール）（70%）が手に入らない場合は、エタノール（60%台）による消拭も許容される。

※有効塩素濃度0.068%以上の次亜塩素酸水についても、汚れをあらかじめ落とし、十分な量で表面をヒタヒタに濡らした状態での拭き掃除は有効とされている。

※有機物が多く存在する環境下では、亜塩素酸水（遊離塩素濃度25ppm（25mg/L））の有効性が確認されている。

厚生労働省「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について（厚生労働省・経済産業省・建設省）
（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html）

- ※家庭用洗剤等も有効性が確認されている。
- ・ ゴミはこまめに回収し、鼻水や唾液等がついたゴミがある場合はビニール袋に密閉する。ゴミの回収等清掃作業を行う作業員は、マスクや手袋を着用し、作業後に手洗いを徹底する。
- ・ 環境省と厚生労働省が示している「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント」等（別紙1～3）⁶を踏まえつつ、気温及び湿度が高い日においては、別添2-2を参考とし、現場の状況に応じて新型コロナウイルス対策に伴う熱中症リスクの軽減等に取り組み。
- ・ なお、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に、熱中症予防行動を効果的に促すことを目的とした情報提供「熱中症警戒アラート」⁷（以下「アラート」という。）が実施されていることも踏まえ、アラートが発表された際は、特に熱中症予防対策を徹底する。

□新型コロナウイルス対策に伴う熱中症リスク軽減等のための取組事例

○冷感素材等を用いたマスクの活用

○マスクと併用可能な空調機器等の活用（空調機能が付いた作業服の着用や、首掛けクーラーの活用等）

○現場作業において、特に不要な場合は適宜マスクを外す（屋外で人と十分に距離を確保できる場合や一人での作業などマスクを外しても良い例外的な場合を明示し、現場で周知等）

○現場でのスポットクーラーや扇風機等の設置

○ドライミスト発生装置の設置

○屋外作業の現場で、送風機等により通気性を確保

○テント付きの屋外休憩所の設置

○休憩所等において、エアコンと換気扇等を併用

○マウスシールドやフェイスシールドの活用

※マウスシールド・フェイスシールドはマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要。

⁶ 環境省・厚生労働省リーフレット「令和2年度の熱中症予防行動」
（https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/20200526_leaflet.pdf）

⁷ 環境省「令和2年度の熱中症予防行動の留意点について～「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』における熱中症予防～」
（https://www.env.go.jp/saigai/novel_coronavirus_2020/heat_illness_prevention_2020.pdf）

厚生労働省「『新しい生活様式』における熱中症予防行動のポイント」
（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121481_coronasettyuu.html）

⁷ 気象庁「熱中症警戒アラート」の全国での運用開始について」
（https://www.jma.go.jp/jma/press/2104/23a/210423_keikai.html）

入浴時間の分散や湯船の増設など、入浴時における接触機会の低減に取り組む。

(iv) 休憩・休息スペース

- 共有する物品（テーブル、椅子等）は、定期的に消毒する。
- 使用する際は、入退室の前後の手洗いを徹底する。
- 喫煙を含め、休憩・休息をとる場合には、できる限り２メートルを目安に距離を確保するよう努め、一定数以上が同時に休憩スペースに入らないう、休憩スペースの追設や休憩時間をずらす等の工夫を行う。
- 特に屋内休憩スペースについては、常時換気※を行う、休憩室の他に軍中や更衣室を利用する、班別に休憩時間を分散化する、簡易なパーテーション（アクリル板等）を設置する等、いわゆる「三つの密」を避けることを徹底する。

※熱中症対策の観点から、気温・湿度が高い日にエアコン等を利用する場合には、必要に応じて定期的に換気を行う

※寒冷な場面においては、適切な換気（機械換気による常時換気や室温が下がらない範囲（18℃以上を目安）での常時窓開け）や適度な保溫（湿度40%以上を目安）を行うとともに、可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニタリングし、適切な換気により1,000ppm以下（機械換気の場合は目安）を維持する

食堂等で飲食する場合は、時間をずらす、椅子を間引く、車中で食事を取るほか、できる限り２メートルを目安に距離を確保するよう努める。施設の制約等により、これが困難な場合も、対面で座らないようにする。これらの措置が困難な場合は、簡易なパーテーション（アクリル板等）を設置する。

□ 食事・休憩時における取組事例

- 休憩室等の窓・ドア等の常時開放や定期的な換気の励行※
- 車中における食事・休憩の励行、休憩時間の分散化
- 更衣室や休憩室等での一定の対人距離の確保
- 簡易なパーテーション（アクリル板等）による密接の防止
- 手洗いの時のタオルの撤去（ペーパータオルの利用等）等

※熱中症対策の観点から、気温・湿度が高い日にエアコン等を利用する場合には、必要に応じて定期的に換気を行う

※寒冷な場面においては、適切な換気（機械換気による常時換気や室温が下がらない範囲（18℃以上を目安）での常時窓開け）や適度な保溫（湿度40%以上を目安）を行うとともに、可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニタリングし、適切な換気により1,000ppm以下（機械換気の場合は目安）を維持する

(ii) 建設現場への移動・立ち入り

現場の状況に応じて、作業員を複数班に分け、入場時間や退場時間を一定時間ずらす

建設現場に車両で移動する際には、車両数を増やす、近隣に借地し駐車スペースを確保する等により、同乗・相乗りを可能な限り避けるようにする。

不要不急な部外者の立ち入りは行わない。

取引先等の外部関係者の立ち入りについては、当該者に対して、従業員に準じた感染防止対策を求めめる。

このため、あらかじめ、これらの外部関係者が所属する企業等に、建設現場やオフィス内での感染防止対策の内容を説明する等により、理解を促す。

不要不急の現場見学会は控える。

□ 現場作業や移動時の取組事例

- 作業員の配置のブロック分けによる密接した作業の回避
- 車両での移動時の同乗・相乗りを避け個別の移動を励行
- 現場と自宅の直行直帰の推奨
- 重機や車両等の操作前の消毒等の徹底
- 密室・密閉空間での換気や送風機等の使用の励行 等

(iii) 作業員宿舎における対応

宿泊する作業員が密な状態とならないよう、発注者と協議の上、十分な広さの作業員宿舎を確保するとともに、以下に掲げる事項等に取り組む。

・ 1部屋当たりの宿泊人数を少なくする。

・ 手洗いの時のタオルを撤去し、ペーパータオルを活用する。

・ 宿舎内においても、マスク着用を励行する。

・ 定期的に換気を実施する。

・ 不特定多数の者が触れる箇所を定期的に消毒する。

・ 食堂等において、対面で座ることがないよう机等を配置する他、利用時間の分散など、利用に当たってのルールを設定する。

・ 机と机の間に簡易的な仕切りを設置する。

(v) トイレ

- ・ 便器は通常の清掃で問題ないが、不特定多数が使用する箇所（ドアノブ、トイレットペーパーホルダー、水栓レバー、便座、スイッチパネ、ル、蛇口等）は清拭消毒を行う。
- ・ トイレに蓋がある場合、蓋を開けてから汚物を流すよう表示する。
- ・ ハンドドライヤーは利用を止め、共通のタオルは禁止し、ペーパータオルを設置するか、従業員に個人用タオルを持参してもらう。

(vi) 入札契約に関する対応

公共工事については、対処方針で示された工事の継続性に留意しつつ、工事現場のある地域を管轄する都道府県知事からの要請を踏まえ、受注者からの申し出があった場合には、受注者間で協議を行った上で、工期の見直しやこれに伴い必要となる請負代金額の変更、一時中止の対応等、適切な措置を行うこととされており、この取り扱いについては民間発注者団体にも参考送付されている。

建設工事の一時中止等の際には、下請契約においても、工期の見直しや一時中止の措置等を通切に講じるほか、下請負人や技能労働者の事業や生業の継続に支障が生じることがないよう十分な配慮をすとともに、適切な代金の支払い等、元請負人と下請負人との間の取引の適正化の徹底を図る。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しつつ、一層の円滑な発注及び施工体制の確保を図るため、国土交通省所管事業の執行について、「国土交通省所管事業の執行における円滑な発注及び施工体制の確保に向けた具体的対策について」（令和2年5月7日付け国地契第6号、国電技第29号、国営管第61号、国営計第15号、国北予第7号）により、総合評価落札方式の技術提案に係る評価について、指定テーマ数等の最小化やヒアリングの原則省略など、入札契約手続全般における柔軟な対応

- ・ 感染拡大防止対策に係る費用など、設計変更の対象とする経費等を入札公告時に明示し、適切に設計変更
- ・ 検査時の書類の簡素化や中間技術検査の簡素化、遠隔現場の試行などの取組を講じるよう、全国の地方整備局等に対して通知されるところととも
- ・ に、地方公共団体に対しても周知が行われたところである。

当該通知の趣旨を踏まえ、感染拡大防止対策に必要な設計変更については発注者との協議を行うなど、入札契約手続きにおいて適切な対応を行う。

厚生労働省より「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト(別紙4)」(「職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理について(令和2年11月27日基発1127第1号)」)が労使団体の長宛てに通知されているので、建設現場の状況に応じて適宜活用されたい。

(4) オフィス等における勤務

- ・ 従業員が、できる限り2メートルを目安に、一定の距離を保てるよう、人員配置について最大限の見直しを行う。
- ・ 従業員に対し、始業時、休憩後を含め、定期的な手洗いを徹底する。このために必要となる水道設備や石けん等を配置する。また、水道が使用できない環境下では、手指消毒液を配置する。
- ・ 従業員に対し、勤務中のマスク等の着用を促す。
- ・ 飛沫感染防止のため、座席配置等は広々と設置する。仕切りのない対面の座席配置は避け、可能な限り対角に配置する。横並びにする等工夫する(その場合でも最低1メートルあける等の対策を検討する)。
- ・ 窓が開く場合1時間に2回以上、窓を開け換気する。建物全体や個別の作業スペースの換気に努める。*なお、機械換気の場合は窓開放との併用は不要である。

※熱中症対策の観点から、気温・湿度が高い日にエアコン等を利用する場合には、必要に応じて定期的に換気を行う

※寒冷な場面においては、適切な換気(機械換気による常時換気や室温が下がらない範囲(18℃以上を目安))での常時窓開け)や適度な保溫(室温40%以上を目安)を行うとともに、可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により1,000ppm以下(機械換気の場合、窓開け換気の場合は目安)を維持する

- ・ 他人と共用する物品や手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にする。
- ・ 人と人が頻繁に対面する場所は、アクリル板・透明ビニールカーテン等で遮蔽する。
- ・ 外勤は公共交通機関のラッシュの時間帯を避ける等、人混みに近づかないようにする。
- ・ 出張は、地域の感染状況に注意し、不急の場合は見合わせる。

- ・ 出勤時や出張時には面会相手や時間、経路、訪問場所等を記録に残す。
- ・ 会議やイベントはオンラインで行うことも検討する。
- ・ 株主総会については、事前の議決権行使を促すこと等により、来場者のない形での開催も検討する。

- ・ 会議を対面で行う場合、マスクを着用し、換気に留意する。また、椅子を減らしたり、机等に印をつけたりする等、近距離や対面に座らないように工夫する。

- ・ 対面の社外の会議やイベント等については、参加の必要性をよく検討したうえで、参加する場合は、最小人数とし、マスクを着用する。

- ・ 採用説明会や面接等については、オンラインでの実施も検討する。

- ・ テレワークを行うにあたっては、厚生労働省のガイドライン等を参照し、労働時間の適正な把握や適正な作業環境の整備等に配慮する。

- ・ オフィス内に感染防止対策を示したポスター（保健所等の連絡先を明記することが望ましい）やロゴ、看板を設置し、「三つの密」回避等の意識向上と作業姿勢の定着を図る。

(5) 通勤

- ・ テレワーク（在宅やサテライトオフィスでの勤務）、時差出勤、ローテーション勤務（就労日や時間帯を複数に分けた勤務）、変形労働時間制、週休3日制等、様々な勤務形態の検討を通じ、通勤頻度を減らし、公共交通機関の混雑緩和を図る。

- ・ 自家用車等公共交通機関を使わずに通勤できる従業員には、道路事情や駐車場の整備状況を踏まえ、通勤災害の防止に留意しつつこれを承認することが考えられる。

(6) 従業員・作業員に対する協力のお願

- ・ 従業員・作業員に対し、感染防止対策の重要性を理解させ、日常生活を含む行動変容を促す。このため、これまで新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が発表している「人との接触を8割減らす10のポイント（別紙5）」⁸（新型コロナウイルス感染症専門家会議（令和2年4月22日））や「新しい生活様式」の実践例（別紙6）⁹（新型コロナウイルス感染症専門家会議（令和2年5月4日（令和2年6月19日一部変更

⁸ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00116.html

⁹ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

更))、「新型コロナウイルス職場における「4つ」の対策ポイント（別紙7）」、「感染リスクが高まる「5つの場面」（別紙8）」、「寒冷な場面に
おける新型コロナウイルス等のポイント（別紙9）」、「冬場における「換
気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法（別紙10）」の周知や、
内閣官房「感染の再拡大防止特設サイト」¹⁰に掲載されているポスター等
（別紙11～20）の活用等の取組を行う。

- ・ 外国人労働者が職場における感染防止対策の内容を正しく理解できるよ
うに、「職場の新型コロナウイルス感染症対策、外国人労働者のみなさん
にも「正しく伝わっていますか?」（別紙21）」や、日本語及び各国語版
の「外国人の方に向けた感染拡大防止のための留意点（別紙22）」を活用
する等して、外国人労働者一人ひとりの状況に応じた配慮を行う。

- ・ 公共交通機関や図書館等公共施設を利用する従業員・作業員には、マス
クの着用、咳エチケットの励行、車内等密閉空間での会話をしないこと
等を徹底する。

- ・ 作業服等を貸与している場合、こまめに洗濯するよう促す。

- ・ 患者、感染者、医療関係者、海外からの帰国者、その家族、児童等の人
権に配慮する。

- ・ 新型コロナウイルス感染症から回復した従業員・作業員が職場復帰する
場合には、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
第18条に規定する就業制限の解除に関する取扱いについて（別紙23）」
において、就業制限解除時のPCR検査は必須ではないことや、解
除された後に職場等で勤務を開始するに当たり職場等に証明を提出する
必要はないこととされていること等を踏まえ、就業制限の解除に関する
取扱いに留意する。

- ・ 新型コロナウイルス感染症から回復した従業員・作業員やその関係者が
事業場内で差別されることがないよう、「『新型コロナウイルス等対策特
別措置法等の一部を改正する法律』における差別的取扱い等の防止に関
する規定の周知について（別紙24）」を踏まえ、従業員・作業員に周知啓
発し、円滑な職場復帰のための十分な配慮を行う。

- ・ 発熱や味覚・嗅覚障害といった新型コロナウイルス感染症にみられる症
状以外の症状も含め、体調に思わしくない点がある場合、濃厚接触の可
能性がある場合、あるいは同居家族で感染した場合、各種休暇制度や住
宅勤務の利用を奨励する。

¹⁰ <https://corona.go.jp/proposal>

- ・ 過去14日以内に政府から入国制限されている、または入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航並びに当該在住者との濃厚接触がある場合、自宅待機を指示する。
- ・ 感染の拡大の防止のため、厚生労働省が無償で提供するスマートフォン用の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用を従業員等に呼び掛ける。（別紙25）
- ・ 取引先等企業にも同様の取組を行うことが望ましい。

厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の陽性者等が発生した場合における衛生上の職場の対応ルール（例）（別紙26）」、「新型コロナウイルス感染症による労働災害も労働者死傷病報告の提出が必要です。（別紙27）」、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る労災認定事例（別紙28）」（「職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理について（令和2年11月27日基発1127第1号）」）が労使団体の長宛てに通知されているので、参照されたい。

(7) 感染者が確認された場合の対応

① 従業員・作業員の感染が確認された場合

- ・ 従業員・作業員が感染した旨を速やかに受注者から発注者に報告する等、所要の連絡体制の構築を図るとともに、都道府県等の保健所等の指導に従い、感染者本人や濃厚接触者の自宅待機をはじめ、適切な措置を講じる。
- ・ 感染者の行動範囲を踏まえ、保健所等の指示に従い、感染者の勤務場所の消毒を行うとともに、必要に応じて、同勤務場所の勤務者に自宅待機をさせる等の対応を検討する。
- ・ 感染者の人名が特定されることがないよう留意する。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を目的とした個人データの取り扱いについては、個人情報保護に配慮し、適正に取り扱う¹²。
- ・ 建設現場・オフィス内で感染者が確認された場合の公表の有無・方法については、上記のように個人情報保護に配慮しつつ、公衆衛生上の要請も踏まえ、実態に応じた対応を行う。
- ・ 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）による通知のあった従業員等には、アプリの画面に表示される手順に沿って検査の受診を促す。

② 複数社が混在する借用ビル内で同居する他社の社員で感染が確認された場合

- ・ 保健所等、医療機関およびビル貸主の指示に従う。

(8) その他

- ・ 総括安全衛生管理者や安全衛生推進者と保健所等との連絡体制を確立し、保健所の聞き取り等に必ず協力する。

(以上)

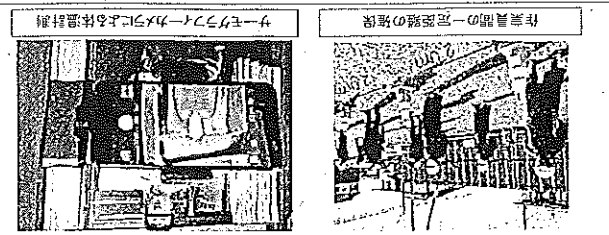
¹² 厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）COVID-19 Contact Confirming Application.

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cncoa_00138.html

は、個人情報保護委員会「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を目的とした個人データの取扱いについて」（https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/covid-19/）などを参照。

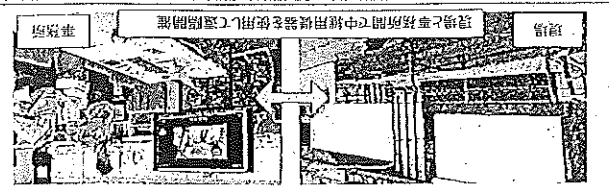
消毒液の使用やうがい、石鹸による手洗い励行、体温測定等による健康管理と作業・打合せ時のマスク着用等、政府の対応方針※を踏まえた対策の徹底とともに、建設現場の「三つの密」の回避等に向けて現場では様々な取組・工夫が実践

※「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対応方針」(令和3年5月7日変更)



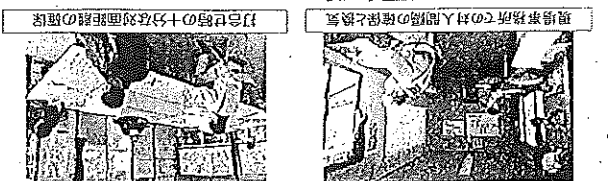
作業員の一定距離の確保

サーモグラフィーカメラによる体温計測



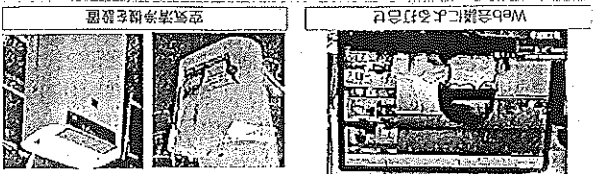
現場

現場と事務所間で共用機器を使用して遠隔開催



現場事務所での対人間隔の確保と換気

打合せ時の十分な対面距離の確保



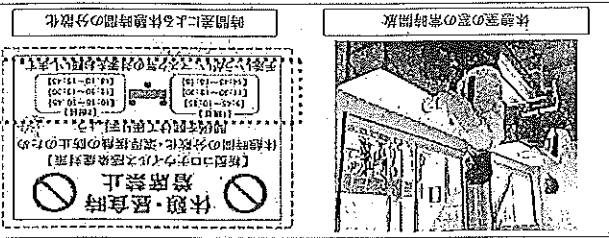
Web会議による打合せ

空気清浄機を設置

- 朝礼時の配列間隔の確保 (作業員間の一応距離の確保 (2m程度))
- 対人間隔が確保困難な場合等の朝礼の参加人数の縮小等 (参加者を職長のみとし、朝礼後にグループ別に伝達事項等を共有する等)
- 伝達事項等に即した朝礼等の時間短縮や内容の効率化 (説明のポイントを絞った時間短縮、伝達事項が明確な資料の活用等)
- 肩こみ等の接触を伴う活動の省略
- 入手の入手が困難な場合は指差し呼称の省略 (指差し呼称する場合には十分な距離を確保する)
- 朝礼時の体温測定等 (非接触体温計の活用等)
- テレビ通話ツール等利用による現場・事務所間の遠隔開催等

現場事務所等での業務・打合せ(回)に関する取組事例

- 事務作業時の対人間隔の確保や窓等の開放による換気
- Web (TV) 会議やメール・電話による対面の打合せ等の削減
- 対面で打合せ等を行う場合には十分な対面距離を確保 (例) 対面距離を20m以上空ける、3人掛けの机を2人掛けで利用する、対面とならないよう座席を配置する など
- 時間差による打合せの分散化や、打合せ時間の短縮・人数の縮小等
- 現場事務所等での空気清浄機の使用

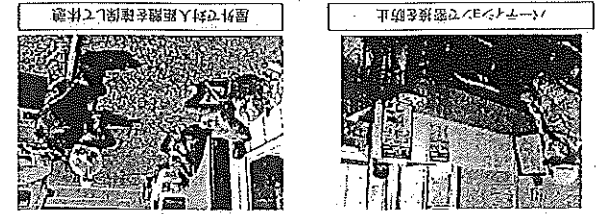


休憩・飲食時 喫煙禁止

【喫煙・飲食時 喫煙禁止】
 休憩時間の分散化・喫煙禁止の防止のため
 喫煙専用喫煙所を設け、喫煙専用器具を
 喫煙専用喫煙所を設け、喫煙専用器具を
 喫煙専用喫煙所を設け、喫煙専用器具を



休憩室の窓の常時開放



休憩室の窓の常時開放

屋外で対人距離を確保して休憩

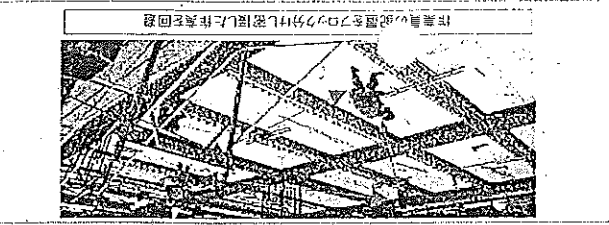


休憩室の窓の常時開放



休憩室の窓の常時開放

屋外で対人距離を確保して休憩



作業員の配置を70%分けし密接した作業を回避

食事・休憩時における取組事例

- 休憩室の窓・ドア等の常時開放や定期的な換気の励行
- 車中における食事・休憩の励行、休憩時間の分散化 (時間差による休憩室や更衣室等の利用、班別の休憩取得の励行など)
- 更衣室や休憩室等での一定の対人距離の確保
- 簡易なパーティション (アクリル板等) による密接の防止
- 手洗い時のタオルの撤去 (パーティションの利用等) 等

現場作業や移動時の取組事例

- 作業員の配置の70%分けによる密接した作業の回避
- 車両での移動時の同乗・相乗りを避け個別の移動を励行 (現場へ移動するための車両数を増やす、近隣に信地し駐車スペースを確保する等)
- 現場と自宅の直行直帰の推奨
- 重機や車両等の操作前の消毒等の徹底 (ハンドルや操作レバー等を消毒する、車両運転時にゴミ手袋を着用する等)
- 密室・密閉空間での換気や送風機等の使用の励行 (室内作業や型枠組立、内装工事など) 等

建設現場「三つの密」の回避等に向けた取組事例 ③

○ 内装仕上げや設備工事等の室内の作業では、工事エリアごとに区画を設定して作業

○ 狭い場所や居室での作業は、広さ等に応じて入室人数を制限して実施
(入口に掲示等を行い周知、室内は窓を開けて換気)

○ 大部屋での作業においても、あらかじめ工程調整等を行ってフロア別に人数を制限
(また、職種別に作業日を分散して、1日の現場入場人数を制限)

○ 室内には換気装置を設置し、換気を実施

○ 工程管理や内装仕上げの確認・是正にWebカメラや通信端末等を利用し、遠隔で実施
(データの共有、相互確認が可能)

○ 作業用エレベーターは3密の回避のため使用のルール化
(定員制限やポスター掲示による周知徹底、乗降時や階数ホコリの等の消毒の徹底)

等



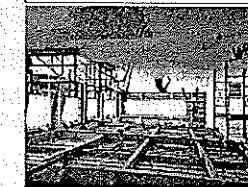
工事エリアの区画を設定して作業

作業時間	8:30~17:00
会社名・作業区	
作業日	5/12
人数制限: 2人以上の作業禁止	

作業場所の広さ等に応じ作業所人数を制限(居室等への入室制限)



大部屋での作業も、フロア別に工程分けや人数を制限し実施



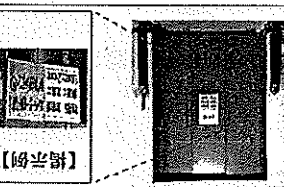
Webカメラを利用した遠隔検査



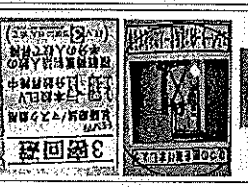
無菌機を設置し室内の換気を実施



通信端末で内装仕上げの確認、是正



作業用エレベーターの使用のルール化 (定員を1~3名程度に限定、ポスター掲示)

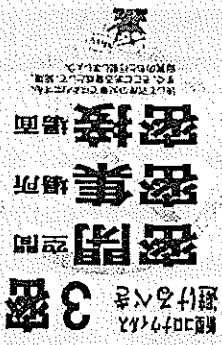


EVの操作盤等の消毒を徹底

建設現場「三つの密」の回避等に向けた取組事例 ④

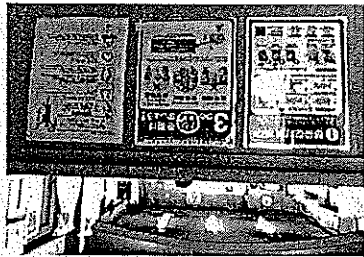
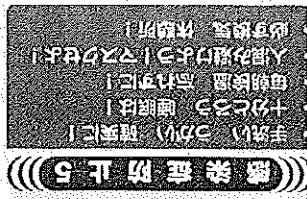
オフィスビルポスターやロコ、看板による意識向上

○ 現場や事務所にオフィシャルのポスターやロコ、看板を設置し、「三つの密」回避等の意識向上と作業姿勢の定着を図る

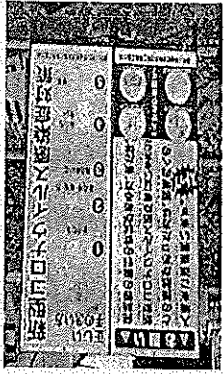


10	戻し時はすぐ密着
9	日々の検閲管理しうかり
8	不要な外出控えよう
7	適正距離で行動し
6	場所をみんなで清潔に
5	扉を叩いて換気
4	休憩前のうがいと手洗い
3	マスクは正しく着用
2	率先しよう 時差出勤
1	出勤前の検温実施

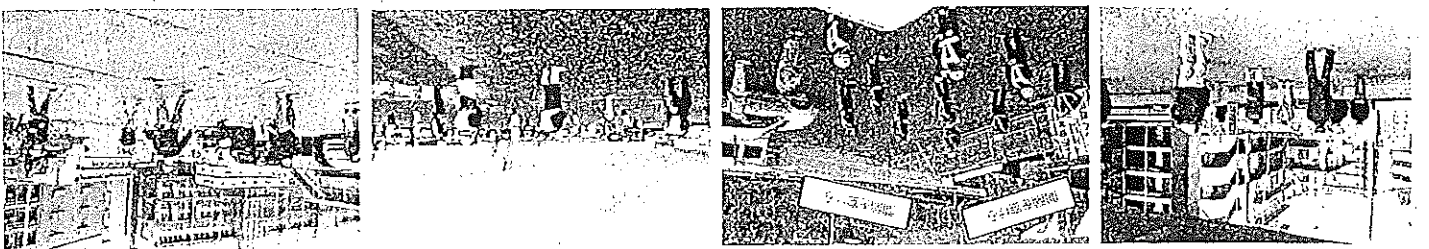
【コロナ感染防止十則】



「三つの密」回避等に向けた取組事例 ③



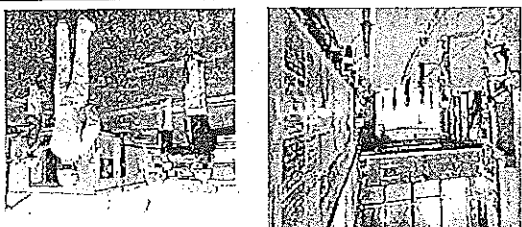
【建設現場『三つの密』の回避等】 朝礼・KY活動における取組・工夫の例



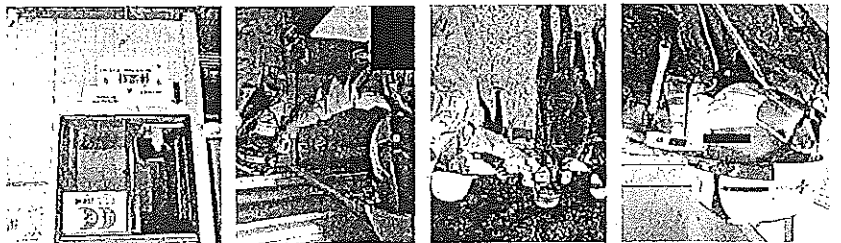
朝礼の整列時に作業員間の距離を十分に確保、参加者は職長等の必要人数になるべく限定



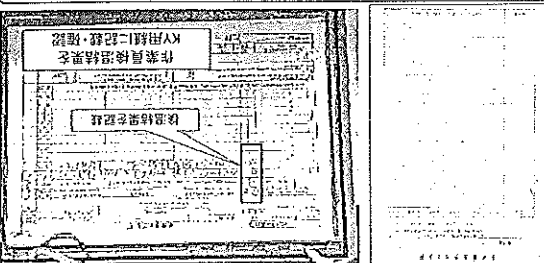
立ち位置をマスキングして配列間隔を確保



朝礼の分散化・少人数化

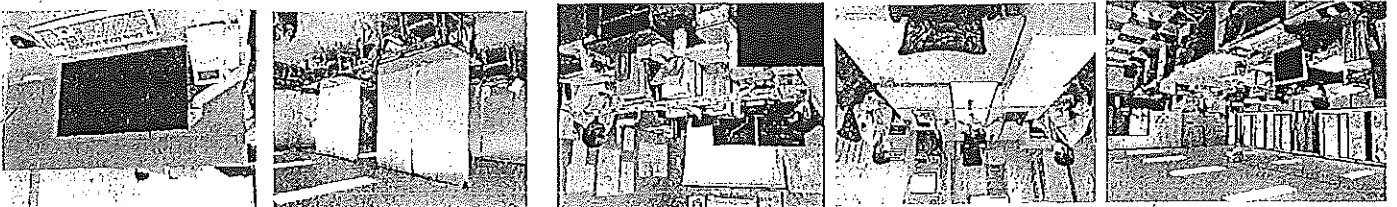


朝礼時などに体温測定を実施。発熱があれば入場を制限

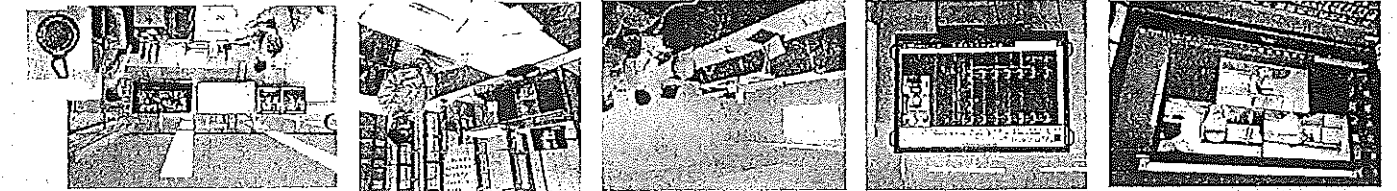


毎日の体温と体調を記録・チェック

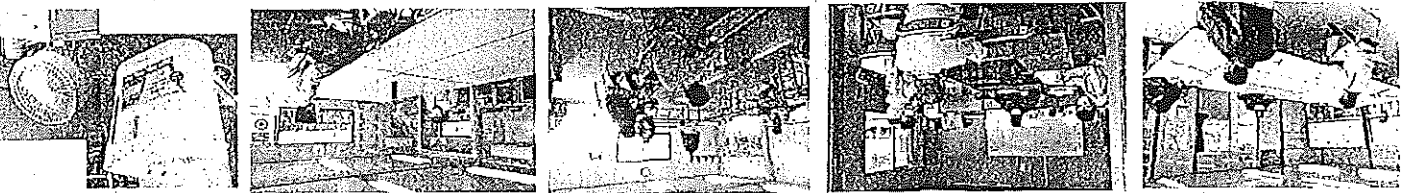
【建設現場『三つの密』の回避等】 現場事務所等での業務・打合せに関する取組・工夫の例



現場事務所での事務作業時は対人間隔を確保。窓等もなるべく開放して換気



Web(TV)会議やメール・電話を活用して、対面での打合せ等はできるだけ削減



対面で打合せ等を行わざるを得ない場合には、人数を縮小し、対面距離を確保して実施。窓を開けるなど換気し、なるべく短時間で終える

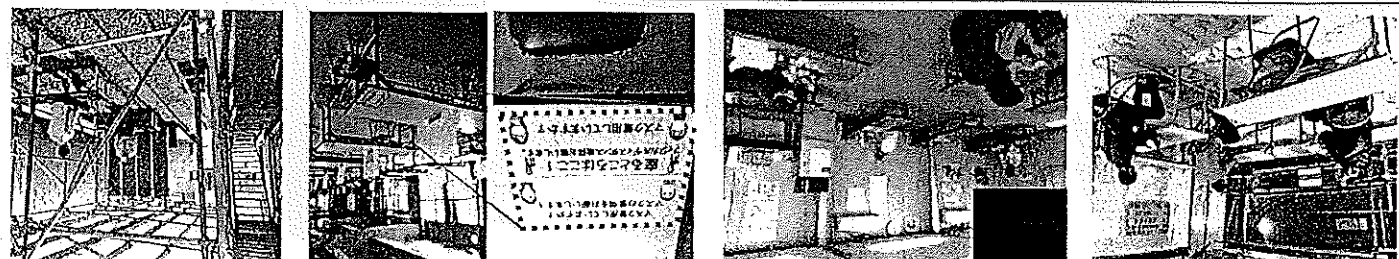
サーキュレーターや空気清浄機を設置

○その他

・ 毎日の工事打ち合わせをV-CUBEで
・ 発注者との週間工程打ち合わせをZoomで実施
・ 立会が必要
面においてFaceTimeを活用等

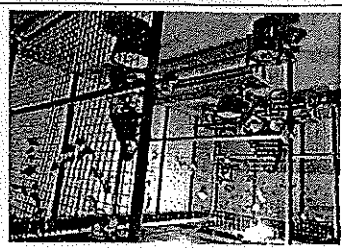
※上記は報告のあった事例であり、活用するツール等については各自で適切に検討をお願いします

【建設現場『三つの密』の回避等】 食事・休憩時における取組・工夫の例



休憩所や喫煙所は大人数での使用を避け、休憩や昼食時間はなるべく時差で取得。座席の配席を工夫し、密接にならないよう留意

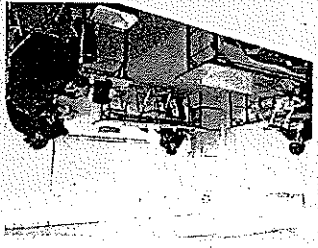
喫煙スペースも仕切りを設置して間隔を確保



施工中の空きスペースをオフィスの休憩所として利用



食時はお互い距離をとって食事



詰所における時差休憩の導入

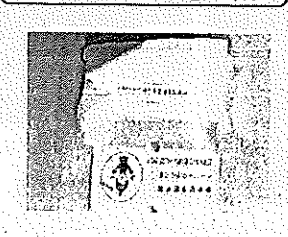
（当該事例）

午前休憩：A班 09:45-10:15、B班 10:15-10:45
 昼休憩：A班 11:30-12:30、B班 12:30-13:30
 午後休憩：A班 14:45-15:15、B班 15:15-15:45

食堂はバリエーションから個別配膳に変更、人数も使用予定表を掲示して制限

10名/席

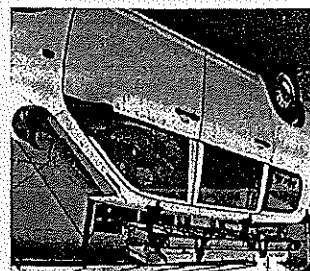
手洗い場所はタオルを撤去、ペーパータオルを使用



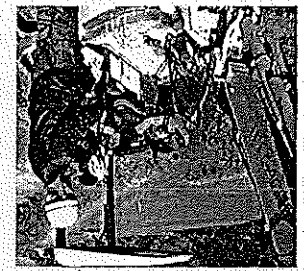
その他の例として、トンネルやダムなど、宿泊施設のある現場について、入浴施設に別々に入浴できるよう、一人用湯舟を4個設置。宿泊施設の食堂で、朝昼晩の食事で密接にならないよう、食堂に取決め表示を掲示。等

【建設現場『三つの密』の回避等】 現場作業や移動時の取組・工夫の例

現場移動では同乗を避けて個人で移動



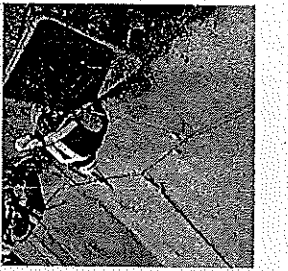
重機のレバーはこまめに消毒



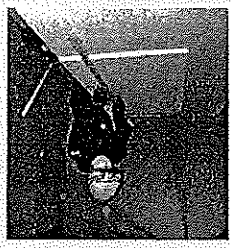
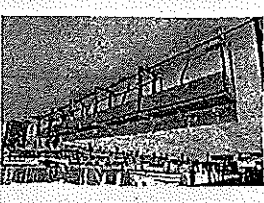
作業場所は定期的に換気する



作業時となるべく距離を確保



現場の手洗い場所の増設

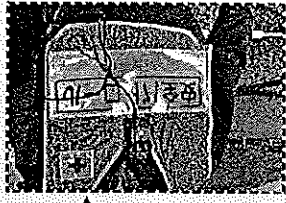


作業時のマスク着用

作業場所での手洗い・励行



携帯Webカメラ活用状況



テレワークでの現場確認状況



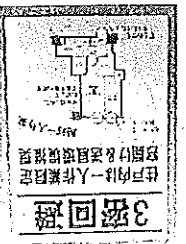
携帯Webカメラで撮影した現場状況がテレワーク実施者のPCへ表示



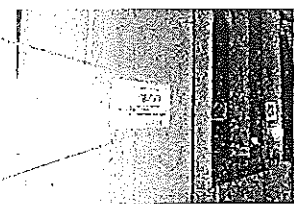
テレワーク中の担当者でも、自宅PC等で確認・指示・注意を行うことができ、テレワークの活用と現場における対人接触の低減に資する



【建設現場『三つの密』の回避等】 内装工事等における取組・工夫の例



- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。
- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。
- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。
- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。
- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。
- 作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。

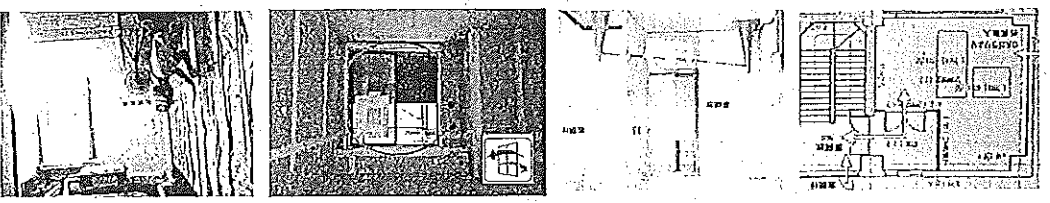


2人室

作業員作業位置を確保し、作業員作業位置を確保する。



内装工事等、住戸内・密室内の作業では人数を制限し、ホスタ等の掲示で周知。作業を少人数で分担するため、工程を調整して作業員数を削減

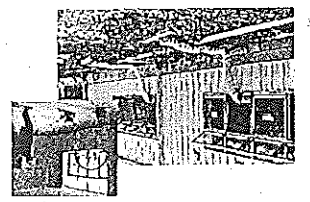


室内の作業現場では、扉・窓の開放によって作業エリアを自然換気。必要に応じて扇風機も併用。

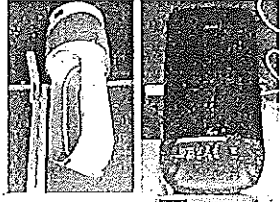
換気設備の活用



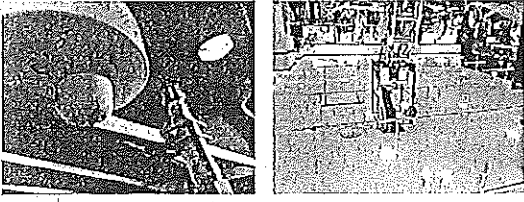
送風機を稼働し、埃を外部へ排出



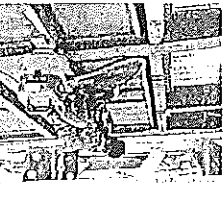
空気清浄機の使用



天井裏の作業は換気が難しいため、空間除菌剤を設置

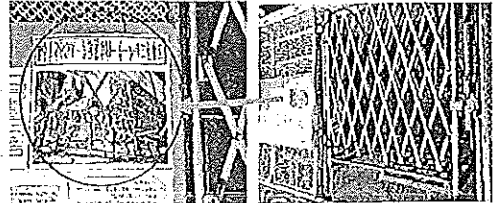


こまめに粉塵等を処理



【建設現場『三つの密』の回避等】 室内におけるその他の取組・工夫の例

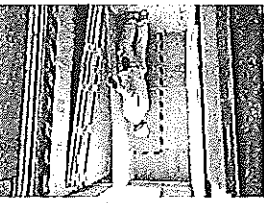
工事用エレベーターの定員を限定、ホスタを掲示



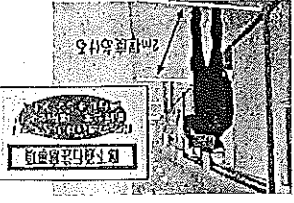
エレベーターにおける人数制限、乗車位置を設定



現場内の昇降機を荷物専用として運用



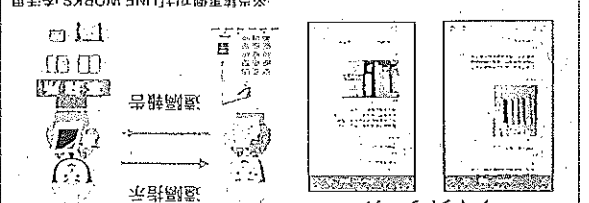
廊下通行も並列歩行を回避



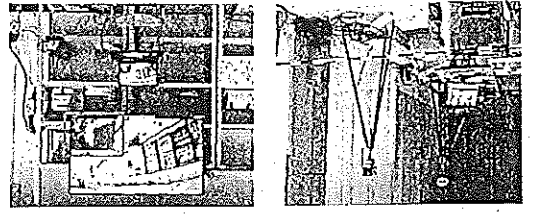
マスクを装着（打ち合わせ時にも装着）



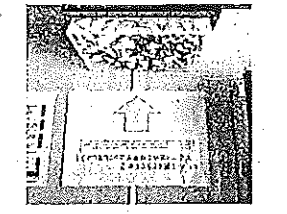
チャットツールを導入し、遠隔指示を通じて作業ができる環境を整備



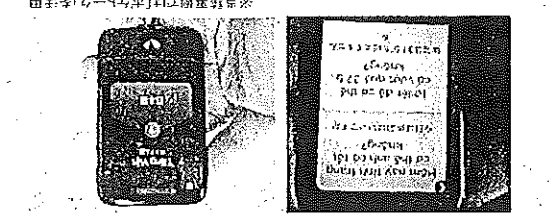
現場等の入口にサーモグラフィ等を設置し 温を測定



のど栓の設置(味覚異常の確認)



携帯型音声通話機を用いた外国人労働者への注意喚起



【新型コロナウイルス対策】対策に伴う熱中症リスク軽減等のための取組事例

別添2-2

新型コロナウイルスの出現に伴い、マスクの着用や3つの密を避ける等の「新しい生活様式」が求められている中で、建設現場では熱中症予防のための様々な取組・工夫が実践されている

マスク着用に関する取組事例

- 冷感素材等を用いたマスク等の活用
- マスクと併用可能な空調機器等の活用
(空調機能が付いた作業服の着用や、首掛けクーラーの活用等)
- 現場作業において、特に不要な場合はマスクを外す等
(屋外で人と十分に距離を確保できる場合や一人での作業など
マスクを外しても良い例外的な場合を明示し、現場で周知等)
- マスクシールドやフェイスシールドの活用
※マスクシールド・フェイスシールドはマスクに比べ効果が弱いと
に留意が必要。

現場での入ホットクーラーや扇風機等の設置

- フライミスト発生装置の設置
- 屋外作業の現場で、送風機等により通気性を確保
- テント付きの屋外休憩所の設置
- 休憩所等において、エアコンと換気扇等を併用等

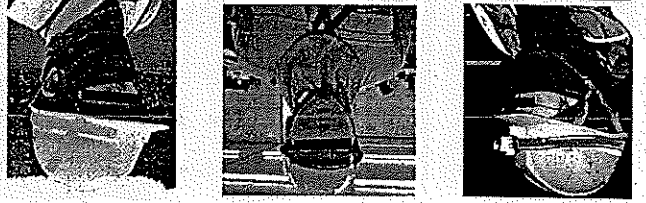
空調機能付きの作業服の活用

- エアホックラー等の活用
- 屋外休憩所にフライミスト発生装置等を設置
- 扇風機や換気扇とエアコンを併用

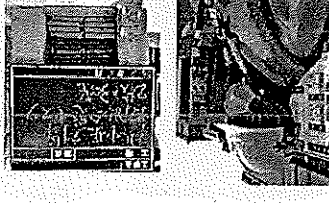
【建設現場 新型コロナウイルス対策に伴う熱中症リスク軽減等】マスク着用に関する取組事例①

※マスクシールド・フェイスシールドはマスクに比べ効果が弱いとに留意が必要。

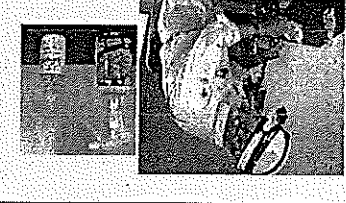
冷感素材のフェイスシールドの活用



冷感マスクの活用



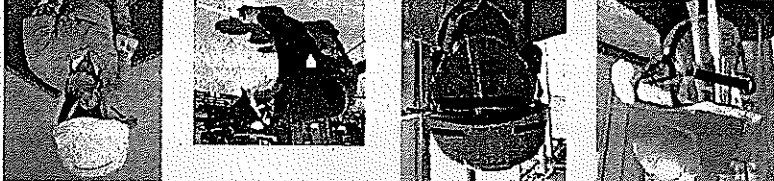
冷感スリッパ等の活用



マスクシールドの活用



フェイスシールドの活用



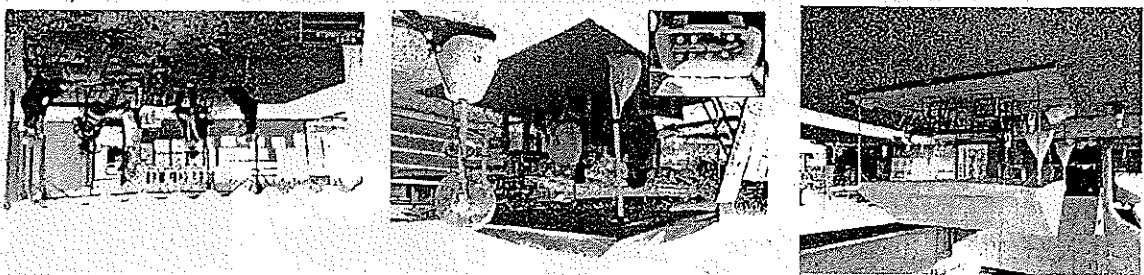
打ち合わせ時におけるマスクシールド・フェイスシールドの活用



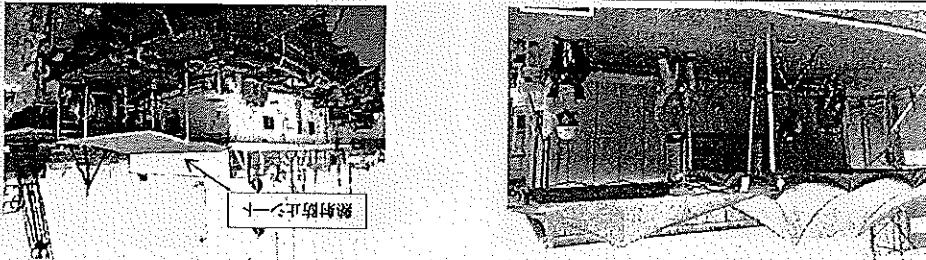
クリアアクリル等を利用したフェイスシールド等の作成



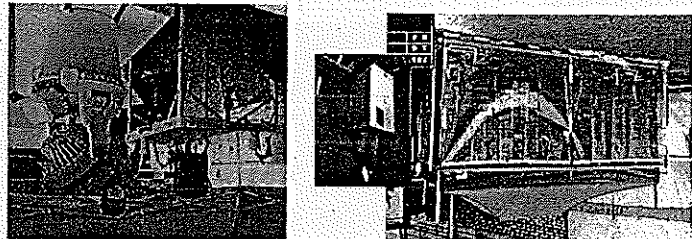
【建設現場 新型コロナ対策に伴う熱中症リスク軽減等】 休憩所に関する取組・工夫の例



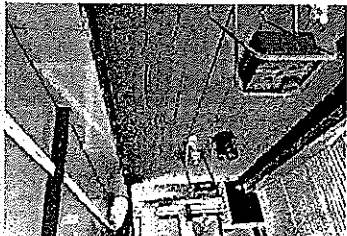
熱射防止シート



屋外にシート等を設置し、休憩所とすることで密閉空間を回避しつつ、熱中症を防止



シートと併せて送風機や入水クーラー、ドライミスト発生装置等を設置



休憩所の壁を一部撤去し、通気性を確保

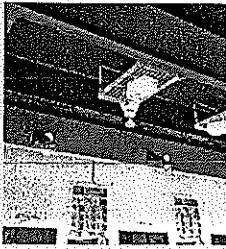
その他熱中症及び三つの密等を回避するための取組・工夫の例



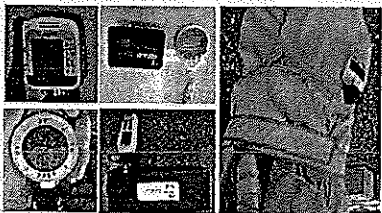
給水機では、ソフト
ハタリのみを利用



製氷機を利用する際は
Eニール袋を手袋として活用



自動スワップ機能付きの
水栓に交換



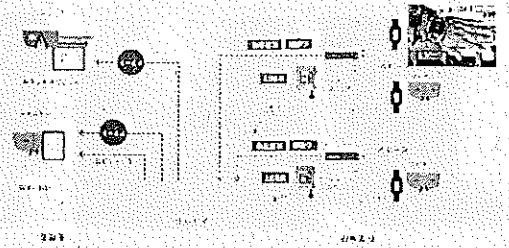
熱中症計等の携帯



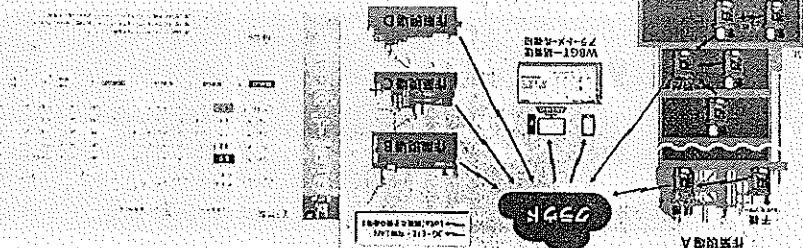
竣工検査をリモートで実施
(完成図書はクラウド上で確認、出来形は事前に発注者で検測等の工夫を実施)



コロナウイルス感染及び熱中症のリスク軽減の
ためのフェイスカバーの手法を検討し・運用
(実験の様子)



作業管理システムの活用
バックカメラにより、作業状況を管理し、複数箇所を同時にWBG1値を
計測し、特定の周縁を一定時間検出した場合にアラートを発生



クラウド端末等でWBG1値を確認可能なシステムの活用

令和2年度の熱中症予防行動の留意点について

～「新しい生活様式」における熱中症予防～

1 趣旨

令和2年5月4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」が示されました。新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人ひとりが感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策を取り入れた生活様式を实践することが求められています。

このように、今夏は、これまでとは異なる生活環境下で迎えることとなりますが、一方で、例年以上に熱中症にも気をつけなければなりません。十分な感染症予防を行いつつ、熱中症予防にもこれまで以上に心掛けるようにしましょう。

なお、「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」を進めていく上での熱中症のリスクについては、必ずしも科学的な知見が十分に集積されているわけではありませんが、特に心掛けていただきたい熱中症予防行動について取りまとめられています。

2 熱中症予防行動の留意点

- (1) 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
 - 夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。

※屋内運動施設での運動は、新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）のリスクが高いことから、お住まいの自治体の情報に従いましょう。

- マスクを着用している場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けるようにしましょう。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。

- 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

- 日頃の体温測定、健康チェックは、新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症を予防する上でも有効です。体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅に静養するようにしましょう。

- 3密（密集、密接、密閉）を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障害者への目配り、声掛けをするようにしましょう。

令和2年度の熱中症予防行動

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このように、「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1 暑さを避けましょう

- ・ エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・ 感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・ 暑い日や時間帯は無理をしない
- ・ 涼しい服装にする
- ・ 急に涼くなった日等は特に注意する



2 2メートル以上の距離を



- ・ 気温・湿度の高い中でマスク着用は要注意
- ・ 屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・ マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

3 こまめに水分補給しましょう

- ・ のどが渇く前に水分補給
- ・ 1日あたり1.2リットルを目安に
- ・ 大皿に汗をかいた時は塩分も忘れずに



4 日頃から健康管理をしましょう

- ・ 日頃から体温測定、健康チェック
- ・ 体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅に静養



5 暑さを避けながら作業をしましょう

- ・ 暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・ 水分補給は忘れずに、無理のない範囲で「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度



高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.vvdベルserv.go.jp/>

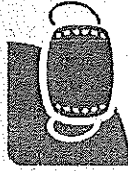
熱中症予防 × コロナ感染防止で

「新しい生活様式」を健康に!

【新しい生活様式】とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保
②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密（密集、密接、密閉）」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

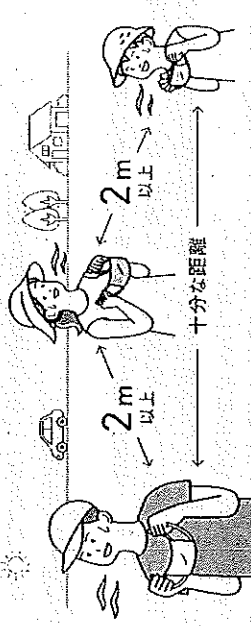
【注意】マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの蒸気逃げにくくなるため、息がこもりやすくなり、体温調節がしづらくなるため、脱水、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク・換気などの「新しい生活様式」が両立できません。



熱中症を防ぐために

マスクをはずしましょう



屋外で

人と2m以上

(十分な距離)

離れている時

マスクを外しては
Rinse・Dry



マスク着用時は



激しい運動は避けましょう

のどが渇いていなくても

こまめに水分補給をしましょう

気温・湿度が高い時は

特に注意しましょう

(2) 従来からの熱中症予防行動の徹底

- ① 暑さを避けましょう。
- ・ 室内の温度・湿度をこまめに確認し、適切に管理しましょう。
- ・ 外出時は天気予報や「暑さ指数 (WBGT)」を参考に、暑い日や時間帯を避け、無理のない範囲で活動しましょう (WBGTは環境省ウェブサイトで提供: <https://www.wbgt.env.go.jp/>)。
- ・ 涼しい服装を心掛け、外に出る際は日傘や帽子を活用しましょう。
- ・ 少しでも体調に異変を感じたら、涼しい場所に移動し水分を補給してください (急に暑くなった日や、久しぶりに暑い環境で身体を動かす際には特に注意が必要です)。
- ② こまめに水分補給をしましょう。
- ・ のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう (一般的に、食事以外に1日当たり1.2Lの水分の摂取が目安とされています)。
- ・ 激しい運動、作業を行ったとき、多くの汗をかいたときは塩分も補給しましょう。

③ 暑さに備えた体作りをしましょう。

- ・ 暑くなり始める時期から適度に運動 (「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で、毎日30分程度) を心掛け、身体が暑さに慣れるようにしましょう (暑熱順化) (※ただし、その際は水分補給を忘れずに、無理のない範囲で実施してください)。

※特に、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障害者の方々は、より注意する必要があります。周囲の方からも積極的な声掛けをお願いします。



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>



項目	確認
(3) 日常的な健康状態の確認	はいいいえ
・出勤前に体調を確認するよう全員に周知し、徹底を求めている。	はいいいえ
・出社時等に、全員の日々の体調(発熱やだるさを含む風邪症状の有無、味覚や嗅覚の異常の有無等)を確認している。	はいいいえ
・体調不良時には正直に申告しやすい雰囲気を作成し、体調不良の訴えがあれば勤務させないこと、正直に申告し休むことで不利益な扱いにしないことを、職場で確認している。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(4) 一般的な健康確保措置	はいいいえ
・長時間の勤務が労働を遅らせるなど、疲労が蓄積しないように配慮している。	はいいいえ
・十分な栄養摂取と睡眠の確保について全員に周知し、意識するよう求めている。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(5) 「新しい生活様式」の実践例で示された「働き方の新しいスタイル」の取組状況について	はいいいえ
・「テレワークやローテーション勤務」を取り入れている。	はいいいえ
・「時差通勤でゆったり」と取り入れている。	はいいいえ
・オフィスの人口密度を減らした「オフィスはひろびろ」と取り入れている。	はいいいえ
・「会議はオンライン」を取り入れている。	はいいいえ
・「名刺交換はオンライン」を取り入れている。	はいいいえ
・「対面での打合せはマスクを取り入れている。	はいいいえ
(6) 新型コロナウイルス感染症に対する情報の収集	はいいいえ
・国、地方自治体や一般社団法人日本産科医学会や公益社団法人日本産業衛生学会等の公益性の高い学会等々のホームページ等を通じて最新の情報を収集している。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
3 感染防止のための具体的な対策	
(1) 基本的な対策	
・①換気の悪い密閉空間、②多くの人が密集、③近距離での会話や発声の「3つの密」を同時に満たす行事等を行わないようにしている。	はいいいえ
・上記「3つの密」が重ならないように、出来る限り「ゼロ密」を目指している。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(2) 換気の悪い密閉空間の改善	
・職場の建物で換気設備(空気調和設備、機械換気設備)の場合、建築物衛生法令の空気環境の基準が満たされている(ただし、室温は18℃以上に維持することが望ましいこと)。	はいいいえ
・職場の建物の窓が開く場合、リーフレット「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法」で推奨する方法により、室温の温度18℃以上かつ相対湿度40%以上を維持しつつ、窓を開けて適切に換気を行っている(HiEPAフィルタ付き空気清浄機の適切な活用を含む)。	はいいいえ
・電車等の公共交通機関の利用に際し、窓開けに協力するよう全員に周知している。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ

項目	確認
(3) 多くの人が密集する場所の改善	
・業態に応じて可能な範囲で出勤を抑制するように努めている。	はいいいえ
・電車やバス等での他人との密着を防ぐため、時差通勤、自転車通勤、自転車通勤などの活用を図っている。	はいいいえ
・テレビ会議やWeb会議の活用等により、人が集まる形での会議等をなるべく避けるようにしている。	はいいいえ
・対面での会議やミーティング等を行う場合は、マスクの着用を原則とし、本人の間隔をできるだけ2m(最低1m)空、可能な限り真正面を避けるようにしている。	はいいいえ
・接客業等において、人と人が近距離で対面することが避けられない場合は、労働者にマスクを着用させ、本人の間隔にアクリル板、不燃性透明ビニールカーテンなどで遮蔽するようにしている。	はいいいえ
・職場外(バスの移動等)でもマスクの着用や、換気、人との間隔を取る等、3つの密を回避するよう努めることとしている。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(4) 接触感染の防止について	
・物品、機器等(例:電話、パソコン、デスク等)や治具、工具などについては、複数人での共用をできる限り回避している。共用する場合には使用前後での手洗いや手指消毒を徹底している。	はいいいえ
・自由に着席場所を選んで仕事をを行うフリーアドレスを導入する場合には、使用前後での消毒、充分な座席間隔の確保、利用状況の記録等を実施することとしている。	はいいいえ
・車庫内での雑物の労働者が触れることがある物品、機器、治具、工具等について、こまめにアルコール(容量%で60%以上)や界面活性剤や次亜塩素酸ナトリウム0.05%水溶液による清掃消毒を実施することとしている。	はいいいえ
※人がいる環境に、消毒や除菌剤を散布する商品を使用することは、眼、鼻、皮膚への付着や吸入による健康影響のおそれがあることから推奨されていません。	
・その他()	はいいいえ
(5) 近距離での会話や発声の抑制	
・職場では、同僚を含む他人と会話する際には、大きな声を出さずに距離をなるべく保つるようにしている。	はいいいえ
・外来者、顧客、取引先との対面での接触や近距離での会話をなるべく避けるようにしている。	はいいいえ
・どうしてもマスクなしで1m以内で会話する必要がある場合は、15分以内で留めるようにしている。	はいいいえ
・粉じんや化学物質など、呼吸用保護マスクを装着する必要がある作業では、声で会話する場合にもマスクを外さないように周知している。拡声器使用や伝声板付きのマスク使用が望ましい。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(6) 共用トイレの清掃等について	
・不特定多数が接触する場所は、消拭消毒を行うこととしている。	はいいいえ
・トイレの床や壁は次亜塩素酸ナトリウム0.1%水溶液で手袋を用いて消拭消毒する。	はいいいえ
・トイレの蓋を閉めて汚物を流すように表示している。(便器内は通常の清掃でよい)	はいいいえ
・ペーパータオルを設置するか、個人ごとにタオルを準備する。	はいいいえ
・ハンドドライヤーは止め、共用のタオルを禁止している。	はいいいえ
・その他()	はいいいえ
(7) 休憩スペース等の利用について	
・一度に休憩する人数を減らし、対面で食事や会話を控え、長居しないようにしている。	はいいいえ

項	目	確認
4	<p>・休憩スペースは常時開放することに努めている。</p> <p>・休憩スペースの共有する物品(テーブル、イス、自販機ボタン等)は、定期的に消毒をしている。</p> <p>・休憩スペースへの入退室の前後に手洗いや手指の消毒をさせている。</p> <p>・社員食堂での感染防止のため、トンブやポットなどの共用を避けている。</p> <p>・喫煙所では同時に利用する人数に制限を設け、手指消毒後に十分経ってから喫煙するよう指導し、全話をせず喫煙後は速やかに立ち退くことを、利用者に周知し、徹底している。</p> <p>・その他の共有の施設について、密閉、密集、密接とならないよう利用方法について検討している。</p> <p>・その他()</p> <p>(8)ゴミの廃棄について</p> <p>・風水、唾液などが付いたゴミ(使用後の紙コップ、ピン、缶、ペットボトルなどを含む)は、ビニール袋に入れて密閉して廃棄することとしている。</p> <p>・ゴミを回収する人は、マスク、手袋、保護メガネを着用することとし、作業後は必ず石けんと流水で手を洗いをすることとしている。</p> <p>・その他()</p>	はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
5	<p>4 配慮が必要な労働者への対応等</p> <p>・風邪症状等が出た場合は「出勤しない、させない」の徹底と、かかりつけ医等の地域で身近な医療機関への電話相談を求めている。</p> <p>・高齢者や基礎疾患(糖尿病、心不全、慢性呼吸器疾患、慢性腎臓病、高血圧症、がんなど)を有する者などの重症化リスク因子を持つ労働者及び妊婦に対しては、本人の申出及び産業医等の意見を踏まえ、感染予防のための就業上の配慮(テレワークや時差出勤等)を行っている。</p> <p>・特に妊婦中の女性労働者が、医師又は助産師からの指導内容について「母体連絡カード」等で申し出た場合、産業医等の意見も動案の上、作業の制限または出勤の制限(在宅勤務又は休業をいう。)の措置を行っている。</p> <p>・テレワークを行う場合は、業務とプライベートの切り分けに留意し、上司や同僚とのコミュニケーション方法を検討し、在宅勤務の特性も理解したうえで、運動不足や睡眠リズムの乱れやメンタルヘルスの問題が顕在化しやすいうことを念頭に置いて就業させている。</p> <p>・その他()</p> <p>5 新型コロナウイルスの陽性者や濃厚接触者(以下「陽性者等」)が出た場合等の対応</p> <p>(1)陽性者等に対する不利益取扱い、差別禁止の明確化</p> <p>・新型コロナウイルスの陽性者等であると判明しても、解雇その他の不利益な取扱いを受けないこと及び差別取扱いを禁止することを全員に周知し、徹底を求めている。</p> <p>(2)陽性者等が出た場合の対応</p> <p>・新型コロナウイルスに陽性である者と判明した場合は、速やかに事業場に電話、メール等により連絡することを全員に周知し、徹底を求めている。</p> <p>・新型コロナウイルスに陽性である者と判明した第三者との濃厚接触があり、保研所から自宅待機等の措置を要請された場合は、速やかに事業場に電話、メール等により連絡することを全員に周知し、徹底を求めている。</p> <p>・新型コロナウイルスに陽性であるとの報告を受け付ける事業場内の部署(担当者)を決め、全員に周知している。また、こうした情報を取り扱う部署(担当者)の取り扱い範囲とプライバシー保護のルールを決め、全員に周知している。</p> <p>・新型コロナウイルスに陽性である者と濃厚接触した者が職場内にいた場合にどのような対応をするかルール化し、全員に周知している。</p>	はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ

項	目	確認
6	<p>・職場の消毒等が必要になった場合の対応について事前に検討を行っている。</p> <p>・その他()</p> <p>(3)その他の対応</p> <p>・濃厚接触者への対応等、必要な相談を受け付けてくれる「保健所」、「開国者・接触者相談センター」等を確保している。</p> <p>・事業場内の診療・健診施設で体調不良者を受け入れる場合は、事業場内での感染拡大の原因となる可能性のあることに留意し、医療従事者は標準予防策を遵守し、適切な感染予防体制(受診者のマスク着用、待合や動線を分ける、受診者が一定の距離を保てるよう配慮するなど)を実行している。</p> <p>・その他()</p> <p>6 熱中症の予防(※暑熱作業があるなど熱中症のリスクがある場合に確認してください)</p> <p>・身体からの発熱を強力抑えるため、作業の身体負担を減らすとともに、休憩を多くとることの重要性を周知している。</p> <p>・のどの渇きを感じなくても、労働者に水分・塩分を摂取するよう周知し、徹底を求めている。</p> <p>※マスクで口が覆われることにより、のどの渇きを感じにくくなる場合があります。</p> <p>・屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合で、大声を出す必要がないときには、マスクをはずすよう周知している。</p> <p>※ ご不明な点がございましたら、お近くの労働局又は労働基準監督署の安全衛生主務課にお問い合わせください。</p>	はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ
		はいいいえ

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に係る職場における集団感染事例

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に係る職場における感染防止措置の取組の参考となるよう、職場における集団感染が発生したと考えられる事例を紹介いたします。

なお、同感染症の職場における対策については、「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」等を活用し、職場の状況を確認した上で、職場の実態に即した、実行可能な感染拡大防止対策の検討をお願いいたします。

各事例の (対応について) については、チェックリストの対応する項目を示しており、1 (1) 1 項のように示しております。

事例1) 事業場 (執務室)

多数の労働者が勤務する執務室内で集団感染が発生したものの。

(集団感染が発生した原因として考えられるもの)

- ・執務室内で作業する労働者の半数がマスクをしていなかった。
- ・席配置について、他の労働者と密接する環境であった。
- ・換気が不十分であった。
- ・複数人で物品・機器等を共有する場合には、消毒を実施していなかった。

(対策について)

- ・普段からマスク装着や咳エチケット (咳や発声の際には袖やハンカチ等で口を覆う) を労働者に周知し、徹底すること。
 - チェックリスト対応項目 1 (6) 項
- ・人との間隔は、できるだけ 2 m (最低 1 m) 空けることとし、席配置を見直すこと。
 - チェックリスト対応項目 2 (1) 1 項
- ・適切に換気を行うこと。
 - チェックリスト対応項目 3 (2) 2 項
- ・物品・機器等 (例: 電話、パソコン、デスク等) については、複数人での共用をできるだけ限り回避し、共用する場合には使用前後での手洗いや手指消毒を徹底すること。また可能であれば共用物品は使用後に消毒すること。
 - チェックリスト対応項目 3 (4) 1 項

事例2) 事業場 (休憩スペースや社員食堂等)

多くの労働者が休憩を同時に取得し、休憩スペースや更衣室も複数の労働者が同時に利用したことから、集団感染が発生したものの。

(集団感染が発生した原因として考えられるもの)

- ・多くの労働者が休憩を同時に取得し、休憩スペースや更衣室および食堂で密集した状況となっていた。
- ・更衣室において、複数の労働者がロッカーを共同で利用する場合に、消毒を実施していないなかった。
- ・食堂において、飛沫感染の防止措置を取らず、労働者が対面で会話をしながら食事をしていた。

(対策について)

- ・一度に休憩する人数を減らし、対面で食事や会話を控え、長居しないようにすること。
 - チェックリスト対応項目 3 (7) 1 項
- ・休憩スペースはこまめに換気し、可能であれば常時換気すること。
 - チェックリスト対応項目 3 (7) 2 項
- ・休憩スペースの共有する物品 (テーブル、いす、自販機ボタン等) は、定期的に消毒をすること。
 - チェックリスト対応項目 3 (7) 3 項
- ・休憩スペースへの入室の前後に手洗い又は手指の消毒をさせること。
 - チェックリスト対応項目 3 (7) 4 項
- ・食堂での感染防止のため、座席数を減らす、座る位置を制限する、会話をしないよう要請する、昼休み等の休憩時間に幅を持たせる、などの工夫をすること。
 - チェックリスト対応項目 3 (7) 5 項

事例3) 事業場外 (外勤時や移動時)











研修など宿泊を伴う業務において、行動を共にしていた労働者が発症。また複数の労働者が、車両にて移動したことから同乗した複数の労働者にも感染が拡大したものの。

(集団感染が発生した原因として考えられるもの)

- ・集団での活動や生活する場で密集していたことから感染した。
 - ・車内では、密接した配席であり、換気も不十分であった。
- (対策について)
- ・人との間隔は、できるだけ 2 m (最低 1 m) 空けること。
 - チェックリスト対応項目 2 (1) 1 項

人との接触を8割減らす、100ポイント

緊急事態宣言の中、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。新型コロナウイルス感染症から、あなたと身近な人の命を守るよう、日常生活を見直してみよう。

<p>1 ビデオ通話でオンライン帰省</p> 	<p>2 スーパーは1人または少数で、または少ない時間に</p> 	<p>3 ショッピングは、少人数で公園はすいた時間、場所を選ぶ</p> 
<p>4 待てる買い物は通販で</p> 	<p>5 飲み会は飲み会をオンラインで</p> 	<p>6 診療は遠隔診療、定期受診は間隔を調整</p> 
<p>7 筋トレやヨガは自宅で動画を活用</p> 	<p>8 飲食は持ち帰り、宅配も</p> 	<p>9 仕事は在宅勤務</p> 
<p>10 会話はマスクをつけて</p> 	<p>3つの密を避けましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 換気の悪い密閉空間 2. 多数が集まる密集場所 3. 間近で会話や発声をする密接場面 	

- ・外出時、屋内にいるときや会話をするとき、症状がなくてもマスクを着用すること。
- ・※なお、熱中症のリスクがある場合には、チェックリスト6について確認してください。
- ・適切に換気を行うこと。
 - チェックリスト対応項目2 (1) 3項
 - チェックリスト対応項目3 (2) 2項
 - 2 (5) 6項、3 (1) 1項
- ・外出から戻ったら手洗いをすること、手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと（手消毒薬の使用も可）。
 - チェックリスト対応項目2 (1) 4項
- ・日常生活用品の複数人での共用は避けること。
 - チェックリスト対応項目3 (6) 5項 (7) 6項
- ・車中で移動する際にも人との間隔を空け、マスクを着用し、換気を行うこと。
 - チェックリスト対応項目3 (3) 6項

注例4) 事業場外（勤務時間外等）職場で開催された就業時間後の飲み会を端緒に集団感染が発生したものの、

- （集団感染が発生した原因として考えられるもの）
- ・飲み会の場では密集した状況であり、換気も不十分であった。
- ・近い距離で比較的大きな声で談笑していた。
- ・職場以外でも感染防止が必要なきが十分周知できていなかった。

（対策について）

- ・職場以外においても、労働者が感染予防の行動を取るよう感染リスクが高まる「5つの場面」や「新しい生活様式」の実践例について、労働者全員に周知を行うこと。

→チェックリスト対応項目1 6項

感染防止の3つの基本

- ①身体的距離の確保
 - ②マスクの着用
 - ③手洗い
- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時や屋内でも会話をすると、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
□家に帰ったら必ず手や顔を洗う。
□人混みの多い場所に行ったら後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
□手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

②日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）
- 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅療養



買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画を立てて早く済ませます
- サンブルなどの展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 施設レやヨ方は、十分に人との間隔を
- もしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

③感染防止の3つの基本

- テレワークやローテーション勤務
- 時差通勤でゆったりと
- オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン
- 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

新型コロナウイルス 職場における「4つ」の対策ポイント ~ 職場での感染にご注意ください! ~

換気

室内では
こまめに換気をしましょう

密

席や更衣室で、人と
適切な距離をとりましょう

共用

複数人での備品の共用は
できる限り避けましょう

休

体調が悪い場合は、
軽めの症状でも
休みましょう・休ませましょう

また、感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保、
②マスクの着用、③手洗いの徹底もお願いいたします。

「接触確認アプリ」(COCOA) ご活用をお願い



職場のみんなをまもるため、
新型コロナウイルス接触確認アプリ*のインストールをお願いします。

*このアプリは、新型コロナウイルス感染症の感染音と接触した可能性について、
通知を受け取ることができ、スマートフォンアプリです。



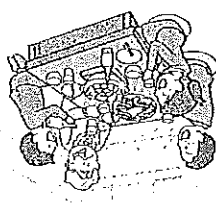
詳しくは厚生労働省サイトへ



感染リスクが高まる「5つの場面」

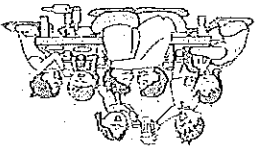
飲酒を伴う懇親会等

飲酒の影響で注意力が低下する。また、発聲が鈍感し、大きな声になりやすい。
 長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
 また、話し込みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



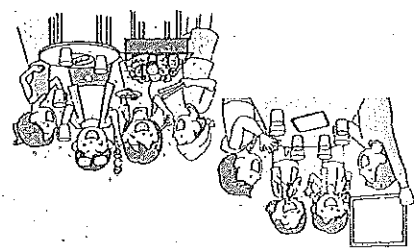
大人数や長時間におよぶ飲食

長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、居間の通常の食事と比べて、感染リスクが高まる。
 また大人数、例えば5人以上の飲食では、大皿になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



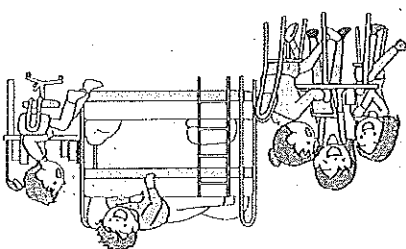
マスクなしでの会話

マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマスク飛沫感染での感染リスクが高まる。
 マスクなしでの感染例としては、身カサオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



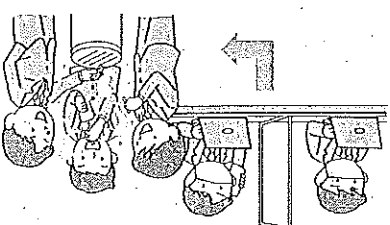
狭い空間での共同生活

狭い空間での共同生活は、長時間にわたる閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



居場所の切り替わり

仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の流れや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
 体組室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



基本的な感染防止対策の実施

マスクを着用

(ウイルスを移さない)

人と人の距離を確保

(1mを目安に)

「5つの場面」感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に

3密を避ける、大声を出さない

寒い環境でも換気の実施

機械換気による常時換気を

(強制的に換気を行うもので2003年7月以降は住宅にも設置。)

機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で

常時窓開け(窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！)

また、連続した部屋等を用いた2段階の換気やHEPAフィルター付きの空気清浄機の使用も考えられる

(例：使用していない部屋の窓を大きく開ける)

飲食店等で可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により

1000ppm以下(*)を維持

*機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。

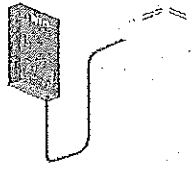
適度な保湿(湿度40%以上を目安)

換気しながら加湿を

(加湿器使用や洗濯物の室内干し)

〇こまめな拭き掃除を

CO2センサー



- 『5つの場面』
- 場面1：飲酒を伴う懇親会
 - 場面2：大人数や長時間におよぶ飲食
 - 場面3：マスクなしでの会話
 - 場面4：狭い空間での共同生活
 - 場面5：居場所の切り替わり

寒冷な場面における新型コロナウイルス感染防止等のポイント

～ 商業施設等の管理者の皆さまへ ～

冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

外気温が低いときに、「換気の悪い密閉空間」を改善する換気と、室温の低下による健康影響の防止を両立するため、以下の点に留意してください。

- ✓ 「換気の悪い密閉空間」は新型コロナウイルス感染症のリスク要因の一つに過ぎず、一人あたりの必要換気量を満たすだけで、感染を確実に予防できるわけではなく、人が密集した空間や密接な接触を避ける措置を併せて実施する必要があります。

推奨される換気の方法

① 窓の開放による方法

換気機能を持つ冷暖房設備※や機械換気設備が設置されていない、または、換気量が十分でない商業施設等は、以下に留意して、窓を開けて換気してください。

※ 冷暖房設備本体に屋内空気を取り入れ口がある（換気用ダクトにつながらない）場合、室内の空気を循環させるだけで、外気を取り入れ機能はないことに注意してください。

- 居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持できる範囲内で、暖房器具を使用※しながら、一方の窓を常時開けて、連続的に換気を行うこと。

※ 加湿器を併用することも有効です。

- 居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持しようとする、窓を十分に開けられない場合は、窓からの換気と併せて、可搬式の空気清浄機を併用すること。

換気は換気による室温変化を抑えるポイント

- ◆ 一方の窓を少しだけ開けて常時換気をする方が、室温変化を抑えられます。窓を開ける幅は、居室の温度と相対湿度をこまめに測定しながら調節してください。
- ◆ 人がいない部屋の窓を開け、廊下を経由して、少し暖まった状態の新鮮な空気を入る部屋に取り入れること（二段階換気）も、室温変化を抑えるのに有効です。
- ◆ 開けている窓の近くに暖房器具を設置すると、室温の低下を防ぐことができますが、燃えやすい物から距離をあけるなど、火災の予防に注意してください。

空気清浄機を併用する際の留意点

- ◆ 空気清浄機は、HEPAフィルタによる過式で、かつ、風量が毎分5m³程度以上のものを使用すること。
 - ◆ 人の居場所から10m²(6畳)程度の範囲内に空気清浄機を設置すること。
 - ◆ 空気のおよみを発生させないように、外気を取り入れる風向きと空気清浄機の風向きを一致させること※。
- ※ 間仕切り等を設置する場合は、空気の流れを妨げない方向や高さとするか、間仕切り等の間に空気清浄機を設置するなど、空気がよまないようにしてください。

② 機械換気(空気調和設備、機械換気設備)による方法

必要換気量を満たすことのできる機械換気設備等が設置された商業施設等は、以下のとおり換気を行ってください。

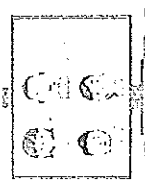
- 機械換気設備等の外気取り入れ量等を調整することで、必要換気量(一人あたり毎時30m³)を確保すること。
- 冷暖房設備により、居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持すること。

留意点

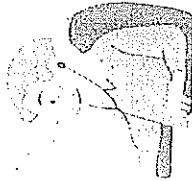
必要換気量を満たしているかを確認する方法として、二酸化炭素濃度測定器を使用し、室内の二酸化炭素濃度が1000ppmを超えていないかを確認することも有効です。

- 測定器は、NDIRセンサーが扱いやすいですが、定期的に校正されたものを使用してください。校正されていない測定器を使用する場合は、あらかじめ、屋外の二酸化炭素濃度を測定し、測定値が外気の二酸化炭素濃度(415ppm～450ppm程度)に近いことを確認してください。
 - 測定器の位置は、ドア、窓、換気口から離れた場所で、人から少なくとも50cm離れたところにしてください。
 - 測定頻度は、機械換気があり、居室内の人数に大きな変動がない場合、定常状態での二酸化炭素濃度を定期的に測定すれば十分です。
 - 連続測定は、機械換気設備による換気量が十分でない施設等において、窓開けによる換気を行うときに有効です。連続測定を実施する場合は、測定担当者に測定値に応じてとるべき行動(窓開け等)をあらかじめ伝えてください。
 - 空気清浄機を併用する場合、二酸化炭素濃度測定は空気清浄機の効果を評価するための適切な評価方法とはならない※に留意してください。
- ※ HEPAフィルタによる過式の空気清浄機は、エアロソール状態のウイルスを含む微粒子を捕集することができず、二酸化炭素濃度を下げることはできません。

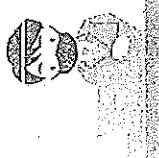
職場における新型コロナウイルス対策宣言 ～取組の5つのポイント～



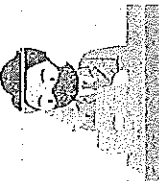
テレワーク・時差出勤等を推進しています。



体調がすぐれない人が気兼ねなく休めるルールを定め、実行できる雰囲気を作っています。



職員間の距離確保、定期的な換気、仕切り、マスク徹底など、密にならない工夫を行っています。



休憩所、更衣室などの「場の切り替わり」や、飲食の場など「感染リスクが高まる5つの場面」での対策・呼びかけを行っています。



手洗いや手指消毒、咳エチケット、複数人が触る箇所の消毒など、感染防止のための基本的な対策を行っています。

(職場名)

職場における新型コロナウイルス対策宣言 ～取組の5つのポイント～

テレワーク・時差出勤等を推進しています。

体調がすぐれない人が気兼ねなく休めるルールを定め、実行できる雰囲気を作っています。

職員間の距離確保、定期的な換気、仕切り、マスク徹底など、密にならない工夫を行っています。

休憩所、更衣室などの「場の切り替わり」や、飲食の場など「感染リスクが高まる5つの場面」での対策・呼びかけを行っています。

手洗いや手指消毒、咳エチケット、複数人が触る箇所の消毒など、感染防止のための基本的な対策を行っています。

(職場名)

一人ひとりの意識が、再びの感染拡大を防ぐことにつながります。

ポイントをおさえて 宴会しよう!



- 換気が良く、座席間の距離も十分に、適切な大きさのアクリル板も設置され、混雑していない店を選択。
- 食事は短時間で、深酒をせず、大声を出さず、会話の時はマスクを着用。
- 人数が増えるほどリスクが高まる。できるだけ、家族か、4人まで。





新型コロナウイルス感染症対策推進課

「ありがとう」が感染予防の輪をつくる

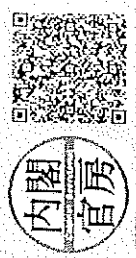
一人ひとりの意識が、再びの感染拡大を防ぐことにつながります。

ポイントをおさえて 宴会しよう!



- 外出はすいた時間と場所を選んで。特に平日・休日ともに混雑した場所での食事は控えて。
- 卒業旅行、謝恩会、歓送迎会は控えて。花見は宴会なしで。
- 仕事は組織トップが決意を示し、リモートワークで。





新型コロナウイルス感染症対策推進課

「ありがとう」が感染予防の輪をつくる

#keep safe for

夏休み、お出かけの
準備は済ませよう

「5つの場面」に気をつけよう

内閣府 新型コロナウイルス感染症対策推進室

AsusVET - © Crypton Future Media, Inc. www.asusveth.com

株式会社 CRISPION

「5つの場面」に気をつけよう

- 1 飲酒を伴う懇親会
- 2 大人数や長時間の飲食
- 3 マスクなしでの会話
- 4 狭い空間での共同生活
- 5 居場所の切り替わり

換気を良くして
三密を避けよう!



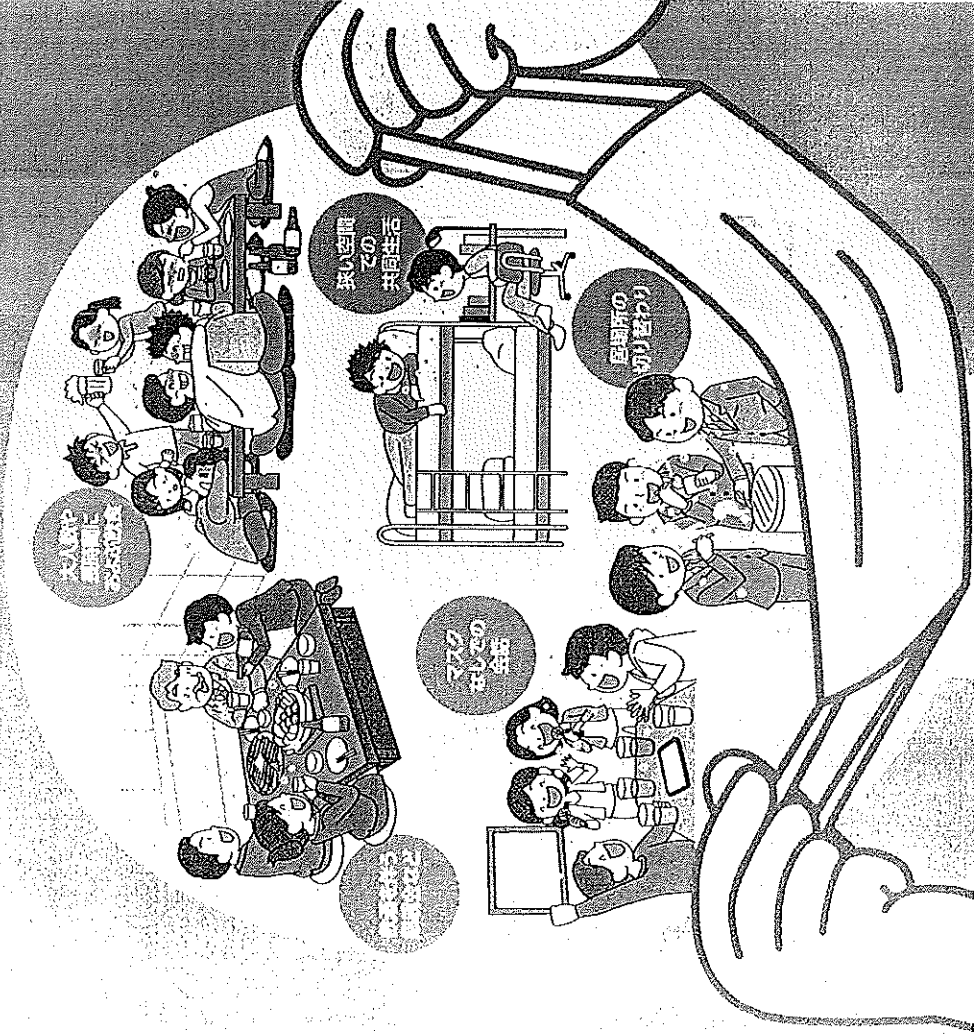
いつでもマスク
手洗い・消毒忘れずに!

別紙17

別紙16

別紙15

あらゆる場面でマスクを



「ありがとう」が感染予防の輪をつくる



新型コロナウイルス感染症対策推進室

これからも守って欲しいこと//

- マスク着用、三密回避、室内換気
- 会話は静かに
- 珠まりは少人数、短時間で
- 手洗い・アルコール消毒を
- 休憩不長時、発熱届は出さない

飲食のマスク



「マスク会食」のマナー ～感染リスクを下げながら会食を楽しむ方法～

- ①少人数・短時間で、なるべく密接一帯にいない人と、②深酒・はしご酒はひかえ、置酒会では
- 新やコップは使いまわさず、一人ひとりで
- 出る際は、お互いの正面や真横を避け、おめ回りに
- 飲食する際だけマスクを外し、会話の際にもマスクを着けて



新型コロナウイルス感染症対策推進室

「ありがとう」が感染予防の輪をつくる

「マスク会食」で 守って欲しいこと

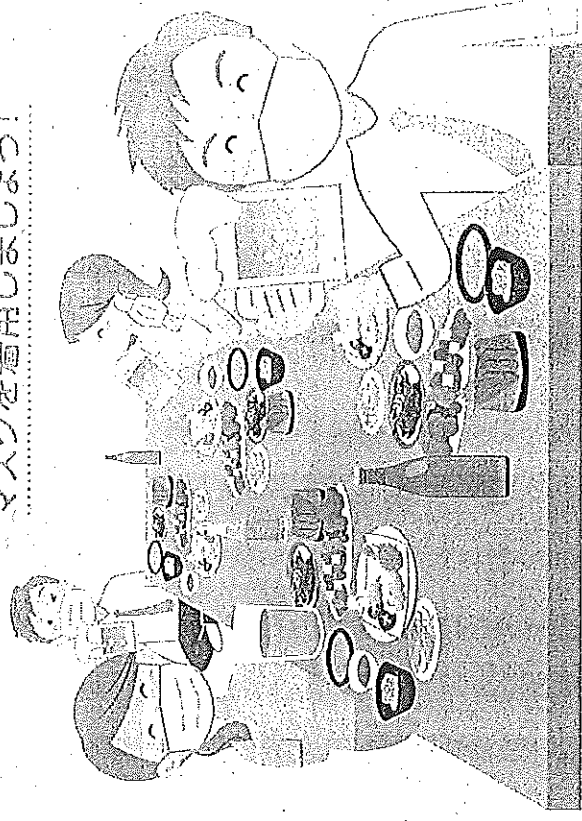
- ① 少人数・短時間で
 - ② なるべく普段一緒にいる人と
 - ③ 深酒・はしご酒はひかえ、適度な酒量で
箸やコップは使いまわさず、
一人ひとりで
- 座る時は、お互いの正面や
真横を避け、斜め向かいに
飲食する時だけマスクを外し、
会話の際にはマスクを着けて

！ 冬のコロナ対策への ご協力をお願いします！

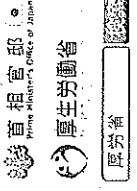
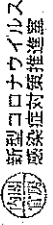
「マスクの着用」「3密の回避」「手洗い・消毒」などの
基本的な感染症対策を徹底しましょう。

「静かなマスク会食」をお願いします

会話の際には
マスクを着用しましょう！



いつでもマスク
気をつけたい「5つの場面」



外国人労働者を雇用する事業主の皆さまへ

職場の新型コロナウイルス感染症対策 外国人労働者の皆さんにも 「正しく伝わっていますか？」

外国人労働者は、日本の労働慣行や日本語に習熟していない場合があるほか、出身国・出身地域により文化や生活習慣が日本と大きく異なる場合があります。

そのため、外国人労働者が安心して働くためには、職場における新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の内容を、正しく理解することがなによりも重要です。

外国人労働者の皆さんが、職場内、職場外で感染予防の行動を取ることが出来るよう、出身国特有の文化や生活習慣もふまえた教育やアドバイスを努めてください。

職場での感染症対策チェックリスト (10か国語)

外国人労働者の皆さんが職場における感染防止対策の内容を十分に理解出来るよう、「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を10か国語（※）に翻訳しました。

事業主の皆さまは、外国人労働者への教育やミーティングをする機会に、このチェックリストを活用するなどして、職場の感染症対策の徹底をお願いします。



※ 英語、中国語（簡体字）、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、カンボジア語、ミャンマー語（やさしい日本語版もあります。）

▶ 各言語のチェックリストは、右記にアクセスをしてご確認ください。
(厚生労働省ウェブページ内)

「裏面」に感染拡大防止のポイントを記載しています。

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署



「職場」での感染拡大防止ポイント

話す

会話をするときは
マスクをつけましょう

立つ

席や更衣室では、
人と適切な距離をとりましょう

休憩時間での座席前の切り取りわりなどで
気が触れることがあるため、適切な距離をとるよう注意しましょう。

換気

室内では、
こまめに空気を入れ換えましょう

共有

備品の共用は避けましょう

どうしても共用する場合には
使用前後の手洗いや手指消毒所を併用しましょう。

「職場外」での感染拡大防止のポイント

自宅や駅など、共同生活をしている場合は、特に以下の取り組みをお願いします。

食す

食事は少人数、短時間にしましょう

席の配置は始めのうちは
(正面や真横はなるべく避ける)
箸やコップの使い回しは避けましょう。

かぶる

こまめに空気を入れ換えましょう

出身地域によっては白布が深く密着する
かもしれませんが初期切りは避けましょう。

共有

使い回しは避けましょう

どうしても共用する必要がある場合は
使用前後の手洗いや手指消毒所を併用しましょう。

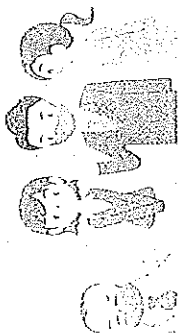
移動

お出かけ先
大人数での移動や密集を避け、
マスクなしでの会話を控えましょう

公共交通機関に利用する場合は
上り降車を避けましょう。

体調が悪いときは上司に相談しましょう。

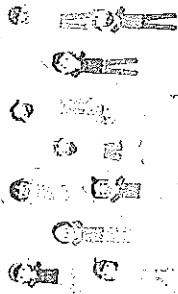
新型コロナウイルス感染症の予防



体調が悪い場合は、イベントや会食に参加しないこと。



密閉・密集・密接が発生しやすい場所や基本的な感染防止策が徹底されていないイベントや会食への参加を控えること。特に、多数の人が密集し、かつ、大声等の発生を伴う行事、パーティー等への参加は控えること。



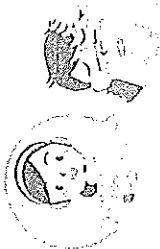
イベントや会食の参加に当たっては、適切な対人距離の確保、手指消毒、マスクの着用、大声での会話の自粛など、適切な感染防止策を徹底すること。



街頭や飲食店での大量または深夜にわたる飲酒や、飲酒しての行事への参加は、その行事の宗教的・文化的特性を踏まえつつ、なるべく自粛すること。



必要に応じて、家族で自宅過ごす、オンラインのイベントに参加するなどの新しい楽しみ方を検討すること。



新型コロナウイルス感染症に感染したと疑われる場合で、医療機関への受診等に関して疑問等がある場合には、居住する自治体の相談窓口等に電話すること。

電話相談窓口

各都道府県の相談窓口 (医療機関への受診に関する疑問)

- <https://www.covid19-info.jp/area-jp.html>
- <https://www.covid19-info.jp/area-en.html>
- <https://www.covid19-info.jp/area-pt.html>
- <https://www.covid19-info.jp/area-cs.html>
- <https://www.covid19-info.jp/area-ct.html>
- <https://www.covid19-info.jp/area-kr.html>

厚生労働省電話相談窓口 (発生状況、全般に関する疑問)

☎0120-565-653 (9:00~21:00)

対応言語 English, 中文 (Chinese), 한국어 (Korean), Português (Portuguese), Español (Spanish), မြန်မာဘာသာ (Thai), Tiếng Việt (Vietnamese)

外国人の生活支援にかかる相談窓口

外国人滞在支援センター (FRESC) (出入国在留管理庁)

<http://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/fresc01.html>

外国人生活支援ポータルサイト

各省の支援施策や地域における外国人向けの生活相談窓口の一覧等を言語別に掲載。

トップページ: <http://www.moj.go.jp/isa/support/portal/index.html>



「ありがとう」が感染予防の輪をつくる

新型コロナウイルス感染症対策推進室

事務連絡
令和2年5月1日

各
〔 都 道 府 県 〕
〔 保 健 所 設 置 市 〕
〔 特 別 区 〕
衛生主管部(局) 御中

厚生労働省新型コロナウイルス感染症
対策推進本部

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第18条
に規定する就業制限の解除に関する取扱いについて

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号。以下「感染症法」という。)第18条に規定する就業制限の解除に関する取扱いを下記のとおり取り取りまとめましたので、その運用に当たって御留意いただきますようお願いいたします。

＜参考：本事務連絡の概要＞

- ・ 就業制限の解除については、宿泊療養又は自宅療養の解除の基準を満たした時点で、同時に就業制限の解除の基準を満たすこととして差し支えないこと(解除時のPCR検査は必須ではないこと)。
- ・ 就業制限解除の確認を求められた場合には、就業制限の解除の基準を満たすこと又は宿泊療養又は自宅療養を開始した日から14日間経過したことを確認すること。
- ・ 就業制限の解除については、医療保健関係者による健康状態の確認を経て行われるものであるため、解除された後に職場等で勤務を開始するに当たり、職場等に証明を提出する必要はないこと。

記

- (1) 宿泊療養又は自宅療養における就業制限の解除について
- 就業制限の解除については、宿泊療養又は自宅療養の解除の基準を満たした時点で、同時に就業制限の解除の基準を満たすこととして差し支えない(解除時のPCR検査は必須ではない)。

※1 「新型コロナウイルス感染症の感染者等に係る宿泊療養及び自宅療養の対象並びに自休における対応に向けた準備について」(令和2年4月2日付け事務連絡)2.(2)

- 原則として、退院基準と同様の基準により、宿泊療養又は自宅療養を解除することとする。
- ※ 退院については、発症の軽快が確認されてから24時間後にPCR検査を実施し、陰転化が確認された場合には、当該検査に係る検体採取から24時間以後に再度検体採取を実施。2回連続でPCR検査での陰性が確認された場合には、退院可能となる。
- ただし、宿泊療養中又は自宅療養中の感染者等にPCR検査を実施する体制をとることにより、重症者に対する医療提供に支障が生じるおそれがある場合には、宿泊療養又は自宅療養を開始した日から14日間経過したときに、解除することができることとする。その際、当該14日間は、保健所(又は保健所が委託した者)が健康観察を実施し、症状に大きな変化がある等の場合は、医師の診察を受け、必要な場合には入院することとする。

(2) 就業制限解除の確認及び証明について

- 感染症法第18条第3項の規定に基づき、就業制限の適用を受けている者又はその保護者から、就業制限の対象者ではなくなったことの確認を求められた場合には、当該地域の実情に応じて、以下のいずれかに該当する旨を確認することとする。
 - ① 就業制限の解除の基準を満たすこと(症状の軽快が確認されてから(無症状病原体保有者については陽性の確認から)24時間後にPCR検査を実施し、陰転化が確認された場合には、当該検査に係る検体採取から24時間以後に再度検体採取を実施して2回連続でPCR検査での陰性が確認されたこと)
 - ② 宿泊療養又は自宅療養を開始した日から14日間経過したこと
- なお、就業制限の解除については、医療保健関係者による健康状態の確認を経て行われるものであるため、解除された後に職場等で勤務を開始する

「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律」における差別的取扱い等の防止に関する規定の内容について、管内市町村（特別区を含む。）をはじめ、関係団体等に周知・対応をお願いするものです。

事務連絡
令和3年2月12日

各都道府県知事 殿

各府省庁担当課室 各位

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長

「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律」における差別的取扱い等の防止に関する規定の周知について

平素から新型コロナウイルスの感染拡大防止策の推進に御協力いただき感謝申し上げます。

「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律」（令和3年法律第5号。以下「改正法」という。）については、第204回国会（通常国会）において、令和3年2月3日に可決成立し、2月13日に施行されます。改正法においては、新たに差別的取扱い等の防止に関する規定が盛り込まれました。当該規定の具体的な内容は別添のとおりですので、関係各位におかれましては、その趣旨を十分御理解の上、管内市町村（特別区を含む。）をはじめ、関係団体等に周知を図るとともに、新型コロナウイルス感染症に起因する差別的取扱い等を防止するため、迅速かつ的確に対策、措置等を講じるべく、その運用に遅滞なく対応していただきいますようお願いいたします。

以上

以上

【本件問合せ先】
内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室
担当官：八重樫、田本、神前、長田、北村、岩淵、山口、石岡
TEL：03-6267-1309
MAIL：ren.yasagahi_cdc@cas.go.jp
kazuki_shiestoma_cdf@cas.go.jp
yui.kozaki_fj@cas.go.jp
hirotoji_kurata_sj@cas.go.jp
shingo_kitamura_hmg@cas.go.jp
daichi_wakumu_kmp@cas.go.jp
hiroko.yamashiro_mv@cas.go.jp
takeaki_tachioka_kmp@cas.go.jp

に当たり、職場等に証明を提出する必要はない、本取扱いは、厚生労働省本省から各都道府県労働局にも通知している。 ※2)

※2 「新型コロナウイルスに関するQ&A（企業の方向け）」10 その他（職場での感染からせ、採用内定取消し、解雇・雇止めなど）（問6）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_jinzen/densho_00004_00007.html

<検査結果の証明について>

問6）労働者を就業させる上で、労働者が新型コロナウイルス感染症に感染しているかどうかを確認することはできますか。

答6）現在、PCR検査は、医師が診療のために必要と判断した場合、又は、公衆衛生上の観点から自身体が必要と判断した場合に実施しています。そのため、医師や自身体にPCR検査が必要と判断されていない労働者について、事業者等からの依頼により、各種証明がされることはありません。

また、新型コロナウイルス感染症患者については、医療保健関係者による健康状態の把握を経て、入院・宿泊療養・自宅療養を終えるものため、療養終了後に勤務等を再開するに当たって、職場等に、陰性証明を提出する必要はありません。

PCR検査を実施した医療機関や保健所において、各種証明がされるかどうかは、医療機関や保健所によって取扱いが異なりますが、国内での感染者数が増える中で、医療機関や保健所への各種証明の請求についてはお控えいただくようお願いいたします。

なお、PCR検査では、検体採取の際の手法が適切でない場合や、検体を採取する時期により、対象者のウイルス量が検出限界以下となり、最初の検査で陰性になった者が、その後陽性になる可能性もありません。

（参考）

令和2年3月19日事務連絡「新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制に関する補足資料の送付について（その7）」（厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部）「新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制についてのQ&A」2、補国者・接触者外来について（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_jinzen/densho_00004_00007.html）

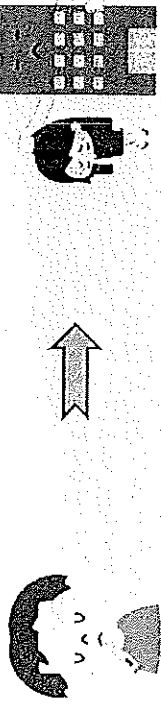
別添
**新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別を
 防止するための規定が設けられました！**

(新型コロナウイルス感染症対策特別措置法等の一部改正する法律 令和3年2月13日施行)

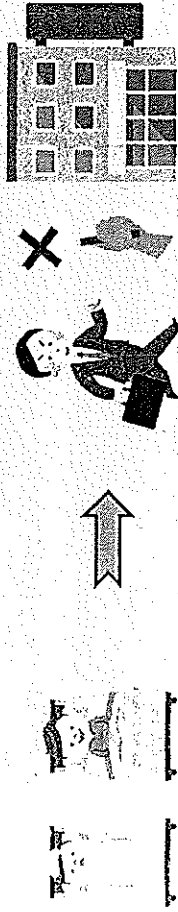
新型コロナウイルス感染症に関する様々な差別的な取扱いが報告されています。こうした偏見や差別は決して許されません。

事例

(感染したことを理由に解雇される)



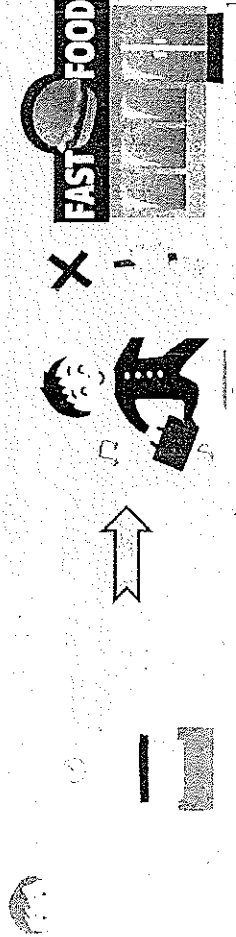
(回復しているのに出社を拒否される)



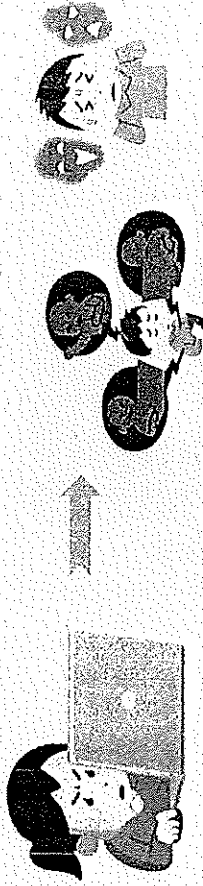
(病院で感染者が出たことを理由に、子供の保育園等の利用を拒否される)



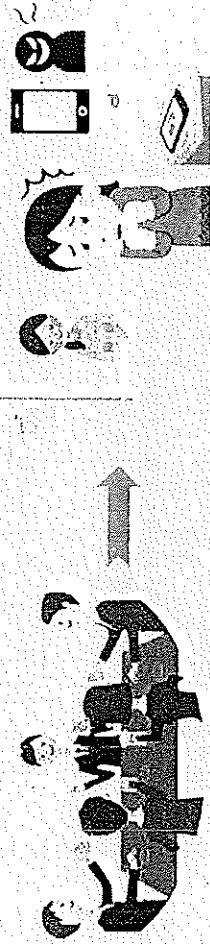
(感染者が発生した学校の学生やその家族に対して来店を拒否する)



(感染者個人の名前や行動を特定し、SNS等で公表・非難する)



(無症状・無自覚で訪れた店舗から謝罪や賠償を強要される)



特措法改正では、感染者やその家族、医療従事者等の人権が尊重され、差別的な取扱いを受けることのないよう、偏見や差別を防止するための規定が設けられました。

国や地方公共団体は、新型コロナウイルスに関する差別的取扱い等の実態把握や啓発活動を行います。

新型コロナウイルス対策特別措置法等の一部を改正する法律 (令和3年法律第5号) (抄)
 (令和3年2月13日施行)

(知識の普及等)

第13条

2 国及び地方公共団体は、新型コロナウイルス等対策を実施するに当たっては、新型コロナウイルス等に起因する差別的取扱い等(次に掲げる行為をいひ、以下この項において「差別的取扱い等」という。)及び他人に対して差別的取扱い等をすることを要求し、依頼し、又は唆す行為が行われるおそれが高いことを考慮して、新型コロナウイルス等患者等の患者及び医療従事者並びにこれら者の家族その他のこれらの者と同一の集団に属する者(以下この項において「新型コロナウイルス等患者等」という。)の人権が尊重され、及び何人も差別的取扱い等を受けなければならないようにするため、新型コロナウイルス等患者等に対する差別的取扱い等の実態の把握、新型コロナウイルス等患者等に対する相談支援並びに新型コロナウイルスエンゲージング等の情報の収集、整理、分析及び提供並びに広報その他の啓発活動を行うものとする。

- 一 新型コロナウイルス等患者等であること又は新型コロナウイルスエンゲージング等患者等であったことを理由とする不当な差別的取扱い
- 二 新型コロナウイルス等患者等の名若又は信用を毀損する行為
- 三 前二号に掲げるもののほか、新型コロナウイルスエンゲージング等患者等の権利利益を侵害する行為

国や地方自治体、民間団体などは、偏見・差別等の防止に向けた普及啓発、相談受付を実施しています。

普及啓発

(法務省)
法務大臣からのメッセージ、新型コロナウイルスと人権に関する座談会 等
http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html

(文部科学省)
文部科学大臣からのメッセージ、新型コロナウイルス“差別・偏見をなくそう”プロジェクト 等
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00122.html

(厚生労働省)
医療従事者、感染者等に対する差別・偏見をなくすための「広がれあがりがどうの輪」プロジェクト 等
https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/qa-jichitai-iryoukikan-fukushishisetsu.html#h2_6

※この他、民間団体等でも様々な取組が行われています。

相談窓口

(法務省)
人権相談窓口における相談受付
http://www.moj.go.jp/JINKEN/index_soudan.html

(厚生労働省)
都道府県労働局における相談受付
<https://www.mhlw.go.jp/general/seido/chihou/kaiketu/soudan.html>

(文部科学省)
児童生徒からのSNS等を活用した相談受付
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1401926.htm

(民間団体による相談受付)
(法テラス) <https://www.houterasu.or.jp/saigaikanren/houterasu-korona.html>
(日弁連) <https://www.nichibenren.or.jp/news/year/2020/topic2.html>
(セーフティーインターネット協会) <https://www.saferinternet.or.jp/>

※この他、相談受付を行っている地方自治体等もあります。

国や地方自治体は、さらに以下の取組も進め、偏見・差別のない社会を目指します。

- ▶ 新型コロナウイルス患者等への差別的取扱い等の実態把握、情報の収集や提供
- ・ ホームページやSNS、政府広報等により、新型コロナウイルスに関する基本情報や感染予防対策、偏見・差別防止に向けた情報発信を強化します。
- ・ 内閣官房ホームページ(corona.go.jp)において、地方自治体や関係団体等の取組事例を発信します。
- ・ 内閣官房ホームページ(corona.go.jp)において、新型コロナウイルスに関する差別的な取扱いの事例を発信し、悪質な行為の法的効果を周知します。

▶ 新型コロナウイルス患者等に対する相談支援

- ・ 関係機関の職員研修等において、専門家からの新型コロナウイルスに関する正しい知識や、対応窓口や地方自治体の取組等を周知します。
- ・ 地方自治体の相談体制の構築を国が支援します。



※これらの取組については、以下をご覧ください。
《偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ これまでの議論とりまとめ》
https://www.cas.go.jp/ip/seisaku/fu/gaiyou_henkensabetsu_torikumi.pdf



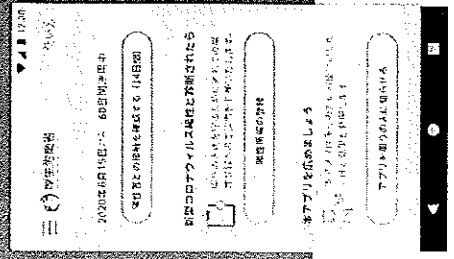
内閣官房

新型コロナウイルス感染症対策推進室

<https://corona.go.jp/>

自分をまもり、大切な人をまもり、
地域と社会をまもるために、
接触確認アプリをインストールしましょう。

厚生労働省 新型コロナウイルス 接触確認アプリ (略称：COCOA) COVID-19 Contact Confirming Application



接触確認アプリは、新型コロナウイルス感染症の
感染者と接触した可能性について、通知を受け取
ることができる、スマートフォンのアプリです

*画面イメージ

○本アプリは、利用者ご本人の同意を前提に、スマートフォンとの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、お互いに分らないようプライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができるアプリです。

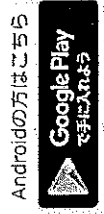
○利用者は、陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることが期待されます。

1メートル以内、15分以上の接触した可能性

接触に関する記録は、端末の中だけで管理し、外にはありません
どこで、いつ、誰と接触したのかは、互いにはわかりません
※端末の中のみで接触の履歴（ランダムな符号）を記録します
※記録は14日経過後に無効となります
※運送先、位置情報など個人が特定される情報は記録しません
※ブルートゥースをオフにすると履歴を記録しません



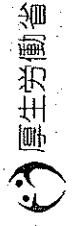
App Store
おさげダウンロード



Google Play
でダウンロード



詳しくはこちら
厚生労働省
ウェブサイトを



厚生労働省

内閣官房

新型コロナウイルス感染症対策推進室
情報通信技術(IT)総合戦略室

- 問1 接触確認アプリとは、どのようなものですか。
利用者ご本人の同意を前提に、スマートフォンとの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、お互いに分らないようプライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができます。なお、本アプリはApple社とGoogle社が提供しているアプリケーション・プログラマング・インターフェイス(API)を元に開発しています。
- 問2 アプリを利用することで、どのようなメリットがありますか。
利用者は、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることが期待されます。
- 問3 他の利用者との接触をどのように記録するのですか。
スマートフォンの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、ほかのスマートフォンとの近接した状態（概ね1メートル以内で15分以上）を接触として検知します。近接した状態の履歴は、ご本人のスマートフォンの中のみ暗号化して記録され、14日を経過した後に自動的に無効になります。この記録は、端末から外部に出ることはなく、利用者はアプリを削除することで、いつでも任意に記録を削除できます。
- 問4 個人情報情報が収集されることはないですか。
氏名・電話番号・メールアドレスなどの個人の特長につながる情報を入力いただくことはありません。他のスマートフォンとの近接した状態の情報は、暗号化のうえ、ご本人のスマートフォンの中のみ記録され、14日を経過した後に自動的に無効になります。行政機関や第三者が接触の記録や個人の情報を利用し、収集することはありません。
- 問5 位置情報情報を利用するのですか。
GPSなどの位置情報情報を利用することはなく、記録することもありません。
- 問6 他の利用者との接触を検知する目安はありますか。
ご利用のスマートフォン同士が、概ね1メートル以内の距離で15分以上の近接した状態にあった場合、接触として検知される可能性が高くなります。機器の性能や周辺環境（ガラス窓や薄い障壁など）、端末を所持する方向などの条件や状態により、計測する距離や時間に差が生じますので、正確性を保証するものではありません。
- 問7 利用はいつでも中止できますか。
いつでも任意にアプリの利用を中止し、アプリを削除することで、すべての過去14日間分までの記録を削除できます。
- 問8 アプリでは、どのような通知がきますか。
新型コロナウイルス感染症の陽性者が、本人の同意のもと、陽性者であることを登録した場合に、その陽性者と過去14日間に、概ね1メートル以内で15分以上の近接した状態があった場合に通知されます。通知を受けた後は、ご自身の症状などを選択いただくと、帰国者・接触者外来等の連絡先が表示され、検査の受診などが案内されます。
- 問9 新型コロナウイルス感染症の陽性者がアプリで登録したら通知はすぐに来ますか。
利用者への通知は、1日1回程度となっております。アプリへの登録のタイミングによっては、すぐに通知されない場合があります。なお、アプリの設定で「通知をON」にしている限り、通知があった場合に画面上に通知メッセージが表示されます。
- 問10 新型コロナウイルス感染症の陽性者と診断されましたが、アプリで登録しなかったらどうなりますか。
陽性者と診断された場合に、アプリへの登録は、利用者の同意が前提であり、任意です。登録いただくことで、あなたと接触した可能性がある方が、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。
- 問11 陽性者との接触の可能性が確認されたとの通知を受けたら、何をすればいいですか。
アプリの画面に表示される手順に沿って、ご自身の症状などを選択いただくと、帰国者・接触者外来などの連絡先が表示され、検査の受診などをご案内します。
- 問12 厚生労働省ではアプリで得た情報を何に利用するのですか。
厚生労働省では、アプリにより、利用者のデータを利用し、収集することはありません。利用者に氏名・電話番号などの個人情報を入力いただくこともありません。

新型コロナウイルスの陽性者等が発生した場合における
衛生上の職場の対応ルール (例)

※ この対応ルール(例)は、職場に新型コロナウイルスの陽性者や濃厚接触者が発生した場合の対応に当たって参考となるよう、企業の取組事例を取りまとめたものです。職場の乗感に応じて、ご活用ください。
※ 職場の対応ルールを定めた場合には、事業場の掲示板等に掲示するとともに、メールや社内のイントラネット等の複数の媒体で労働者に周知願います。

- 1 労働者が陽性者等であると判明した場合の事業者(社内担当者)への報告に関すること
 - (1) PCR検査等を実施することが決定した段階で、速やかに所属長に報告する。また、検査の結果が判明した際には、その結果を速やかに所属長に報告する(結果が陰性であった場合も含む)。
 - (2) 報告を受けた所属長は、事業場の人事担当部門(新型コロナウイルス対策本部や対応窓口)が設置されている場合には当該部門)に報告する。
 - (3) 健康情報の取扱いは、必要最小限の関係者に限るものとする。

※ 健康情報取扱規程を定めている場合には、その取扱に準じて健康情報の取扱を行う関係者を定めることとする。

- 2 労働者が陽性者等であると判明した場合の保健所との連携に関すること

労働者が陽性者等であると判明した場合には、濃厚接触者の自宅待機などの保健所の指示に従うとともに、保健所による積極的疫学調査が実施される場合に備え、事業場ごとに保健所との窓口となる担当者を決めておく。また、陽性者等の勤務状況や在籍する部署の座席表、フロアの見取り図を準備しておく。

- 3 職場の消毒等が必要になった場合の対応に関すること

職場の消毒等については、保健所等より指示がある場合にはその指示に従い、特段の指示が無い場合には、以下の方法によって実施する。

- (1) 消毒を行う箇所
 - ① 陽性者等の執務室
パソコン、タブレット、電話、FAX、コピー機などの電子機器、陽性

者等の椅子や机、キャビネット、ドアノブ、照明スイッチ、床面や壁など陽性者等が接触したと考えられる箇所

- ② 食堂、ロッカールーム、トイレなどの共有スペース
食堂の椅子やテーブル、会議室の椅子やテーブル、ロッカールームのドアノブや照明スイッチ、階段の手すり、トイレの便座など陽性者等が接触したと考えられる箇所

- (2) 使用する消毒液及び使用方法

陽性者等の周囲の高頻度接触部位などは、消毒用アルコール又は0.05%の次亜塩素酸ナトリウムによる清拭で高頻度接触面や物品等を消毒する。陽性者由来の液体(痰、血液、排泄物など)が付着した箇所の消毒については、消毒用エタノールや0.05~0.5%次亜塩素酸ナトリウムで清拭又は30分間浸漬する。
- (3) 消毒時に使用する保護具

清拭、消毒を行う者は、手袋、マスク、ゴーグル等の眼を防護するものなどの保護具を着用する。清拭には使い捨てのペーパータオルなどを用いる。また、手袋は滅菌したものでなくとも差し支えないが、頑丈で水を通さない材質のものを用いる。
- (4) 消毒後の手指の衛生

消毒の実施後は、手袋を外した後に流水・石鹸による手洗い、手指消毒用アルコール等による手指の衛生を必ず行う。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る労災認定事例

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る労災請求のご参考となるよう、労災認定の具体的な事例について概要をご紹介します。

なお、同感染症の労災認定の考え方について示した令和2年4月28日付け基補発0428第1号「新型コロナウイルス感染症の労災補償における取扱い」（以下「通知」といいます。）に記載している事項に沿って、職種に着目して事例をご紹介します。

1 医療従事者等の事例（通知記の2の（1）のA）

【考え方】医師、看護師、介護従事者等の医療従事者等が新型コロナウイルスに感染した場合は、業務外で感染したことが明らかな場合を除き、原則として労災保険給付の対象となる）

事例1）医師

A 医師が診察した患者に発熱等の症状がみられ、その患者は後日新型コロナウイルスに感染していたことが判明した。その後、A 医師は発熱等の症状が出現し、濃厚接触者としてPCR検査を行ったところ、新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署における調査の結果、A 医師は、業務外で感染したことが明らかではなかったことから、支給決定された。

事例2）看護師

B 看護師は、日々多数の患者に対し、問診、採血等の看護業務に従事していたところ、頭痛、発熱等の症状が続き、PCR検査で新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署における調査の結果、B 看護師は、業務外で感染したことが明らかではなかったことから、支給決定された。

事例3）介護職員

介護職員のCさんは、訪問介護利用者宅で介護業務に従事していたところ、利用者に新型コロナウイルス感染が確認されたため、濃厚接触者としてPCR検査を受けた結果、新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署における調査の結果、Cさんは、業務外で感染したことが明らかではなかったことから、支給決定された。

事例4）理学療法士

D 理学療法士は、病院のリハビリテーション科で業務に従事していたところ、院内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、複数の医師の感染が確認された。それらの医師と接触歴があったD 理学療法士にも、咳、発熱等の症状が出現し、PCR検査で新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署における調査の結果、D 理学療法士は、業務外で感染したことが

明らかではなかったことから、支給決定された。

2 医療従事者等以外の労働者であって感染経路が特定された場合の事例（通知記の2の（1）のイ）

【考え方】感染源が業務に内在していることが明らかなる場合は、労災保険給付の対象となる）

事例5）飲食店店員

飲食店店員のEさんは、店内での業務に従事していたが、新型コロナウイルス感染者が店舗に来店していたことが確認されたことから、PCR検査を受けたところ新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

また、労働基準監督署における調査の結果、Eさん以外にも同時期に複数の同僚労働者の感染が確認され、クラスターが発生したと認められた。

以上の経過から、Eさんは新型コロナウイルスに感染しており、感染経路が特定され、感染源が業務に内在していたことが明らかであると判断されたことから、支給決定された。

事例6）建設作業員

建設作業員のFさんは、勤務中、同僚労働者と作業車に同乗していたところ、後日、作業車に同乗した同僚が新型コロナウイルスに感染していることが確認された。Fさんはその後体調不良となり、PCR検査を受けたところ新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

また、労働基準監督署における調査の結果、Fさんについては当該同僚以外の感染者との接触は確認されなかった。

以上の経過から、Fさんは新型コロナウイルスに感染しており、感染経路が特定され、感染源が業務に内在していたことが明らかであると判断されたことから、支給決定された。

3 医療従事者等以外の労働者であって感染経路が特定されない場合の事例（通知 記の

2の（1）のウ）

【考え方：感染経路が特定されない場合であっても、感染リスクが相対的に高いと考えられる業務（複数の感染者が確認された労働環境下での業務や顧客等との近接や接触の機会が多い労働環境下での業務など）に従事し、業務により感染した蓋然性が高いものと認められる場合は、労災保険給付の対象となる】

事例7）小売店販売員

小売店販売員のGさんは、店頭での接客業務等に従事していたが、発熱、咳等の症状が出現したため、PCR検査を受けたところ新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署において調査したところ、Gさんの感染経路は特定されなかったが、発症前の14日間の業務内容については、日々数十人と接合し商品説明等を行っていたことが認められ、感染リスクが相対的に高いと考えられる業務に従事していたものと認められた。

一方、発症前14日間の私生活での外出については、日用品の買い物や散歩などで、私生活における感染のリスクは低いものと認められた。

医学専門家からは、接客中の飛沫感染や接触感染が考えられるなど、当該販売員の感染は、業務により感染した蓋然性が高いものと認められるとの意見であった。以上の経過から、Gさんは、新型コロナウイルスに感染しており、感染経路は特定されないが、従事した業務は、顧客との近接や接触が多い労働環境下での業務と認められ、業務により感染した蓋然性が高く、業務に起因したものと判断されることから、支給決定された。

事例8）タクシードライバー

タクシードライバーのHさんは、乗客輸送の業務に従事していたが、発熱の症状が出現したため、PCR検査を受けたところ新型コロナウイルス感染陽性と判定された。

労働基準監督署において調査したところ、Hさんの感染経路は特定されなかったが、発症前の14日間の業務内容については、日々数十人の乗客（海外や県外からの乗客を含む）を輸送する業務を行っていたことが認められ、感染リスクが相対的に高いと考えられる業務に従事していたものと認められた。

一方、発症前14日間の私生活での外出については、日用品の買い物などで、私生活における感染のリスクは低いものと認められた。

医学専門家からは、飛沫感染が考えられるなど、当該タクシードライバーの感染は、業務により感染した蓋然性が高いものと認められるとの意見であった。

以上の経過から、Hさんは、新型コロナウイルスに感染しており、感染経路は特定されないが、従事した業務は、顧客との近接や接触が多い労働環境下での業務と認められ、業務により感染した蓋然性が高く、業務に起因したものと判断されることから、支給決定された。